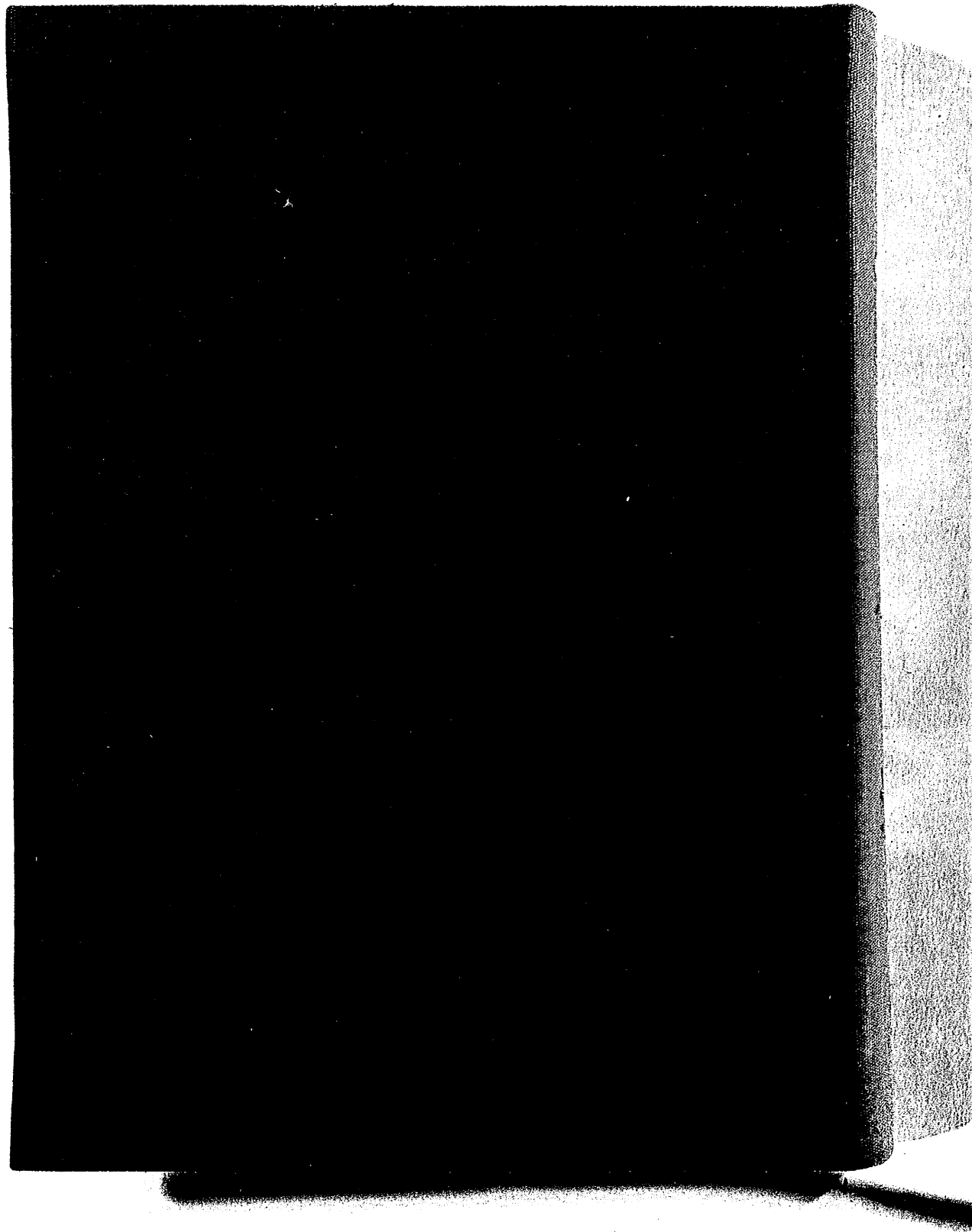
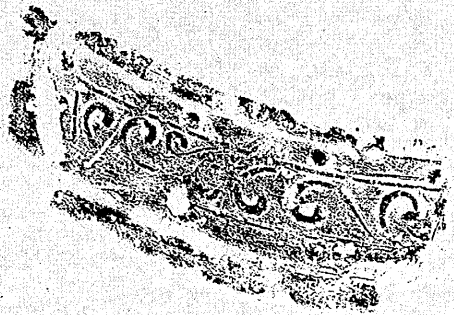
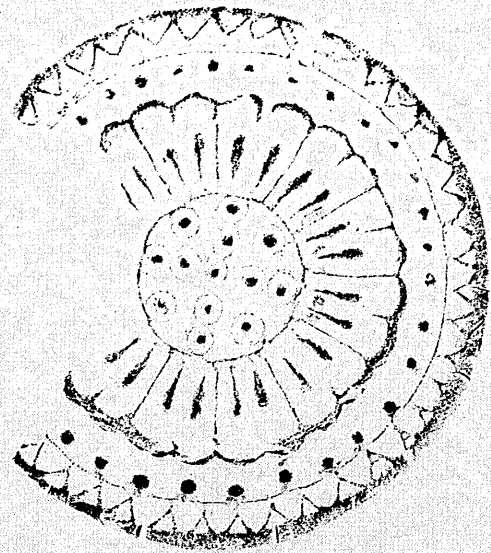
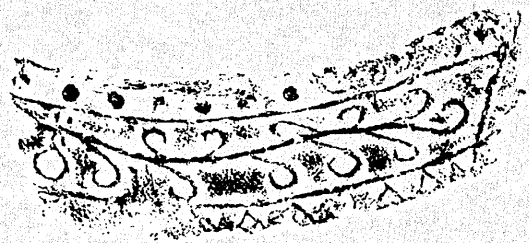
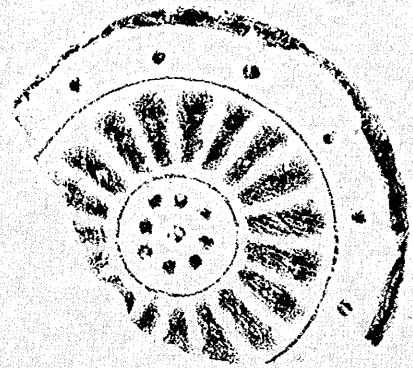


昭和51年刊行

新修 芦屋市史

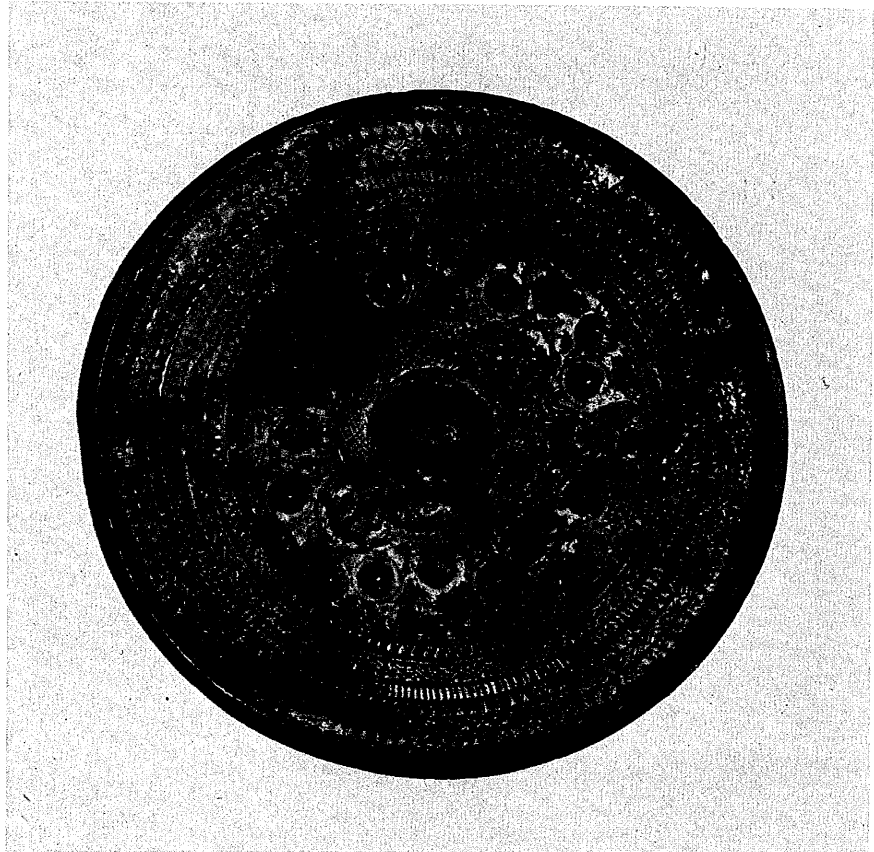
資料篇 一



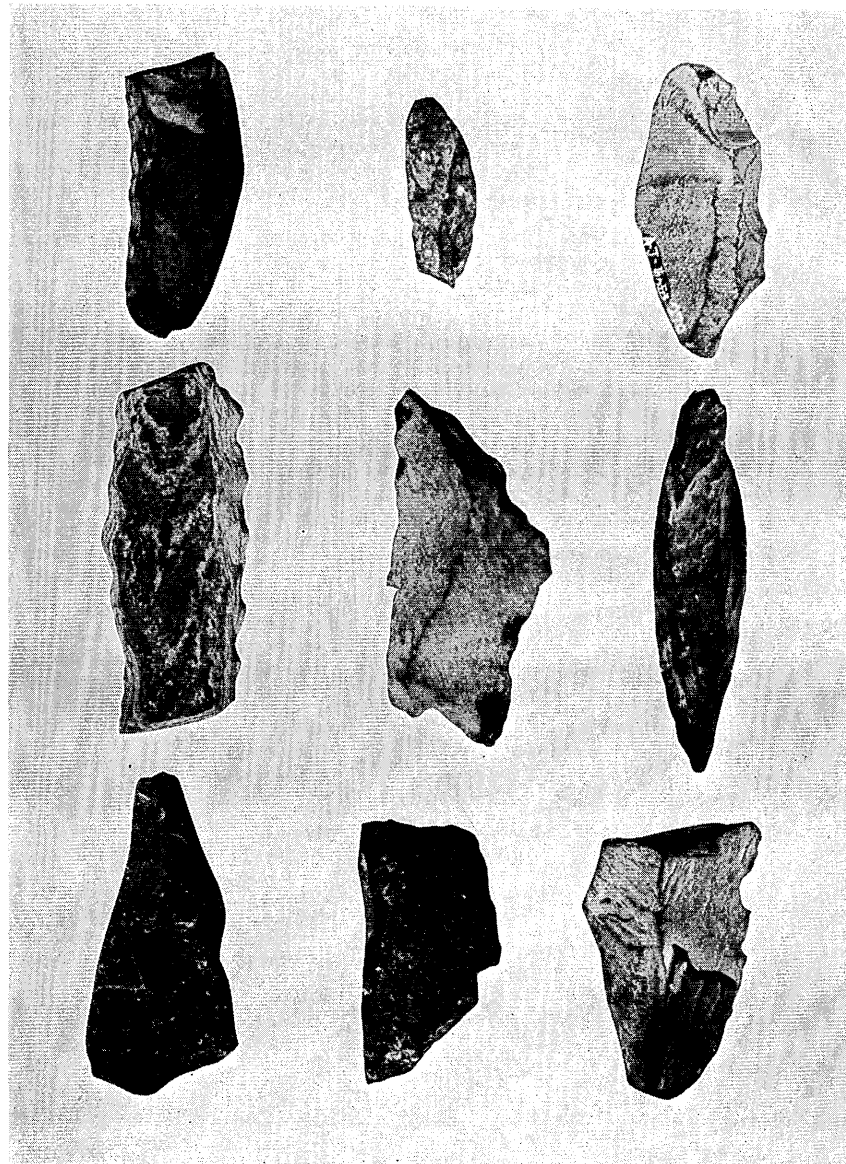


新修 芦屋市史

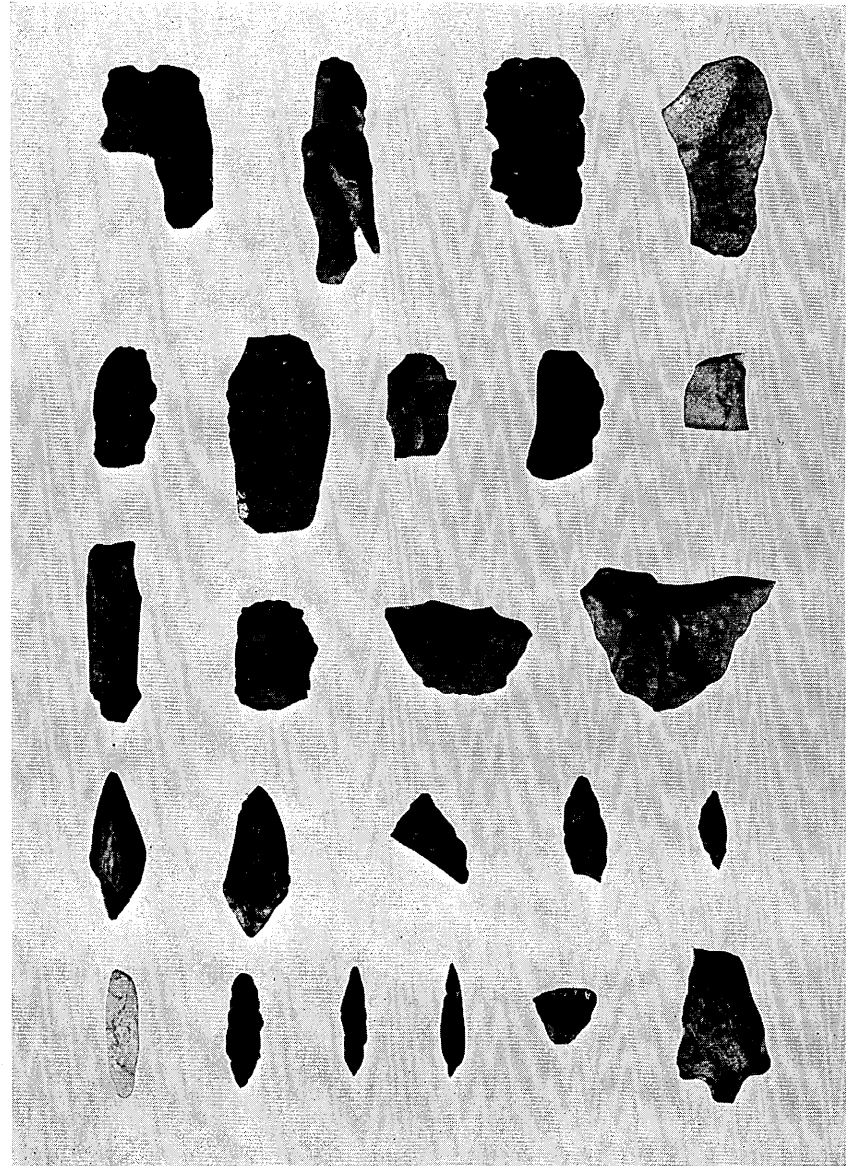
資料篇一



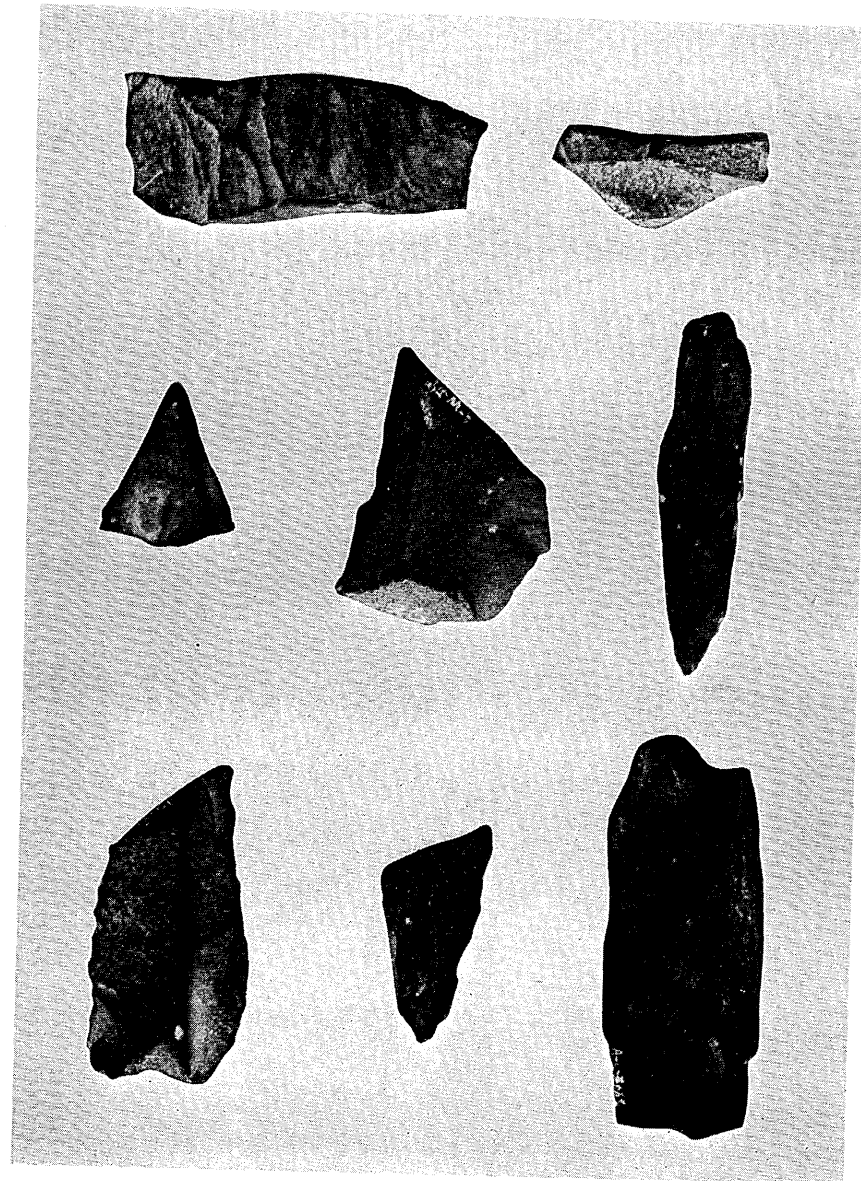
圖版1 陳孝然作魚帶文四神二獸博山爐鏡



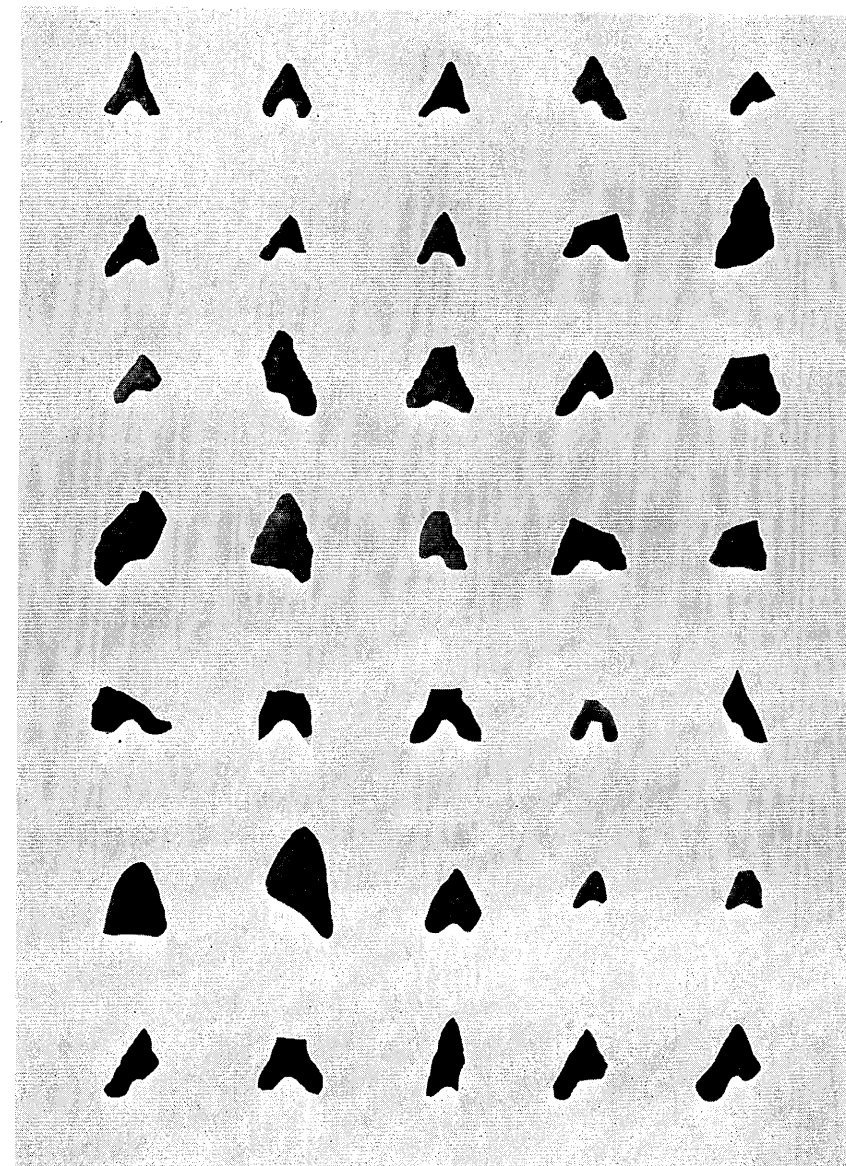
図版2 朝日ヶ丘遺跡出土の石器 (1) 〈旧石器時代〉



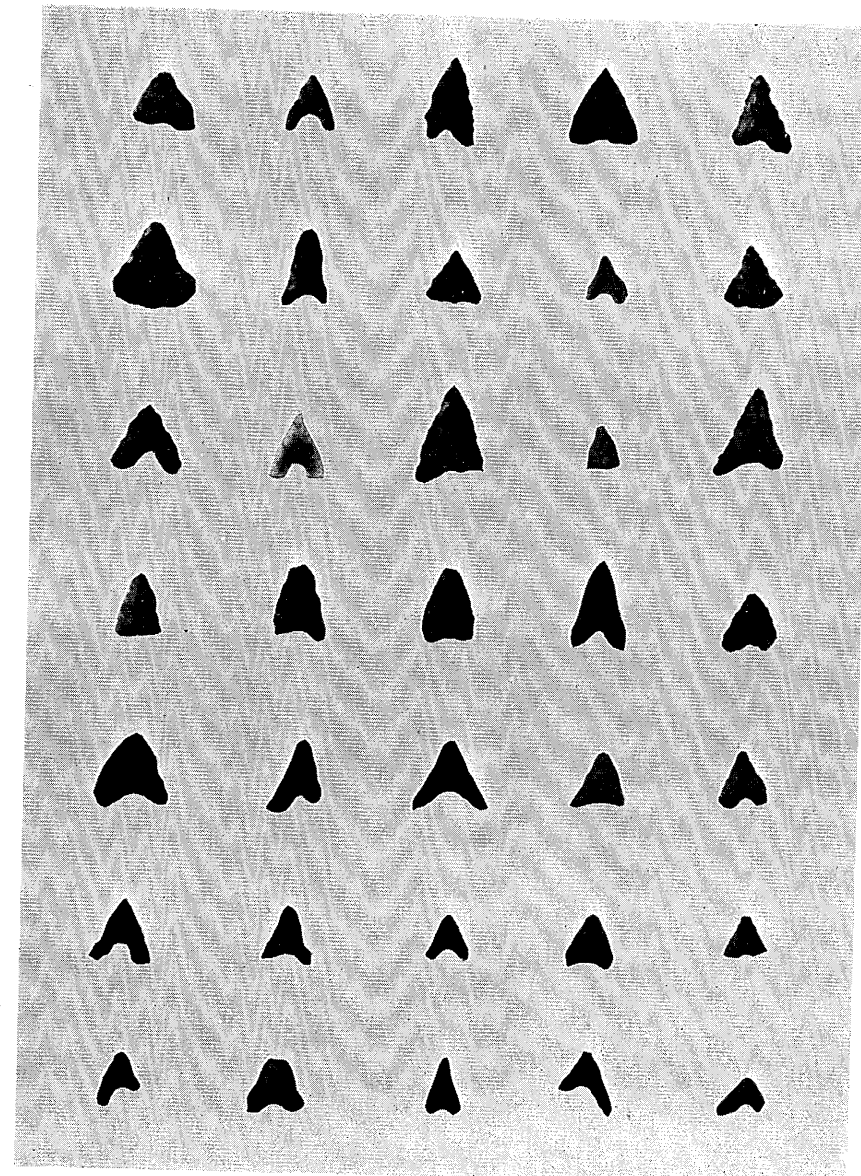
図版4 朝日ヶ丘遺跡出土の石器 (3) <旧石器時代>



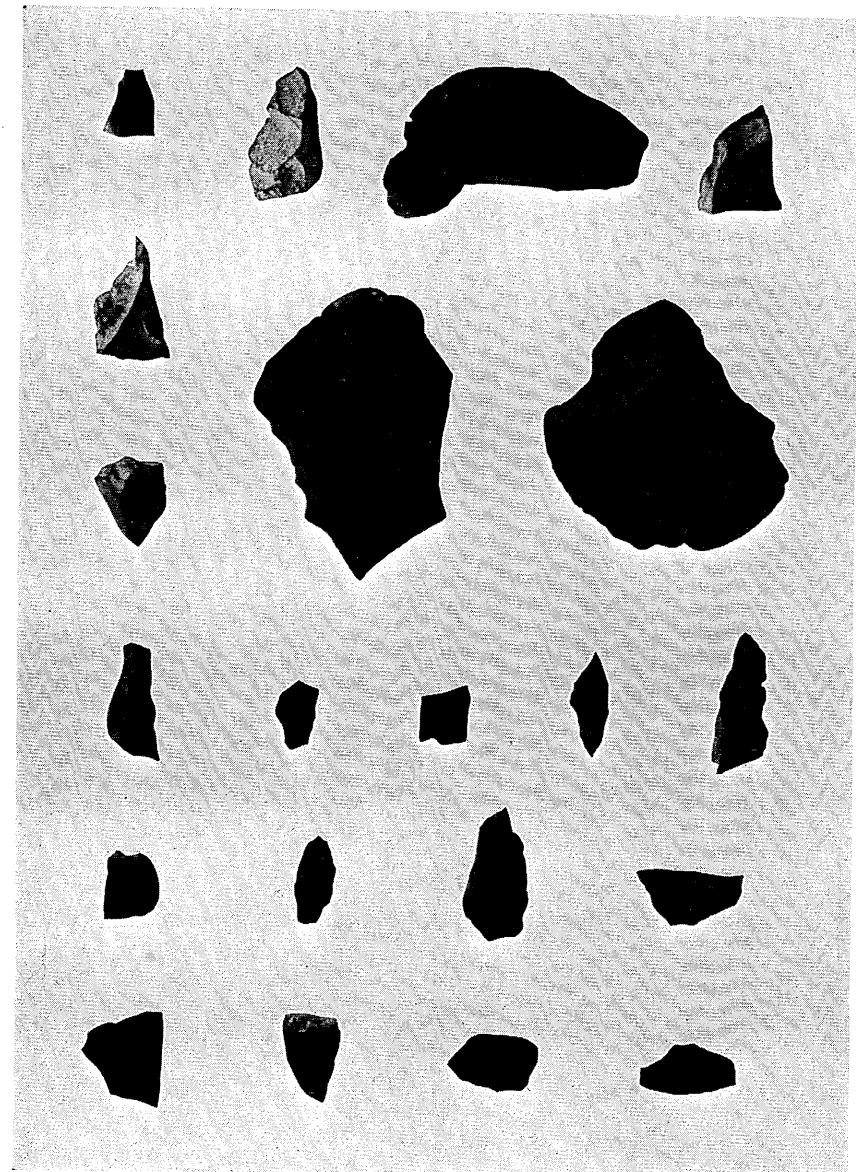
図版3 朝日ヶ丘遺跡出土の石器 (2) <旧石器時代>



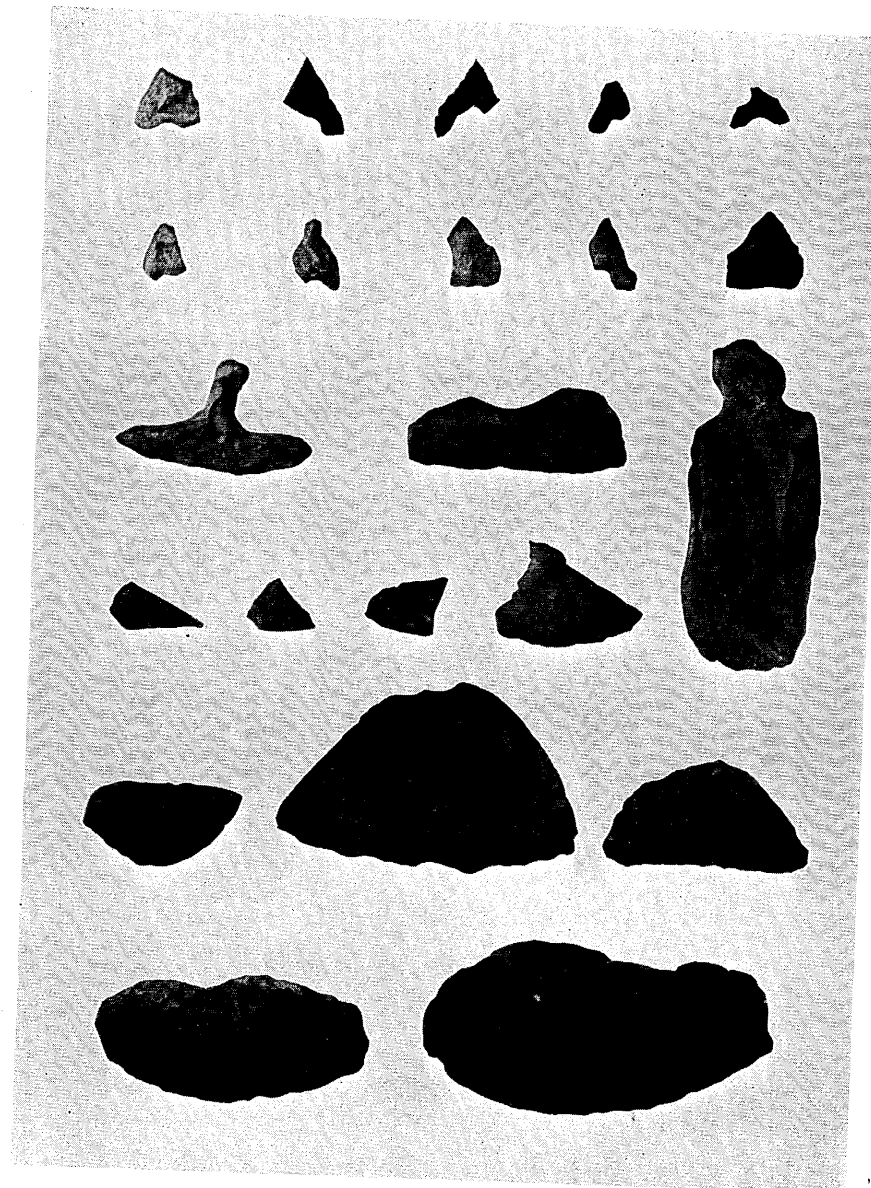
図版 6 朝日ヶ丘遺跡昭和39年調査出土石器 (2) <縄文時代>



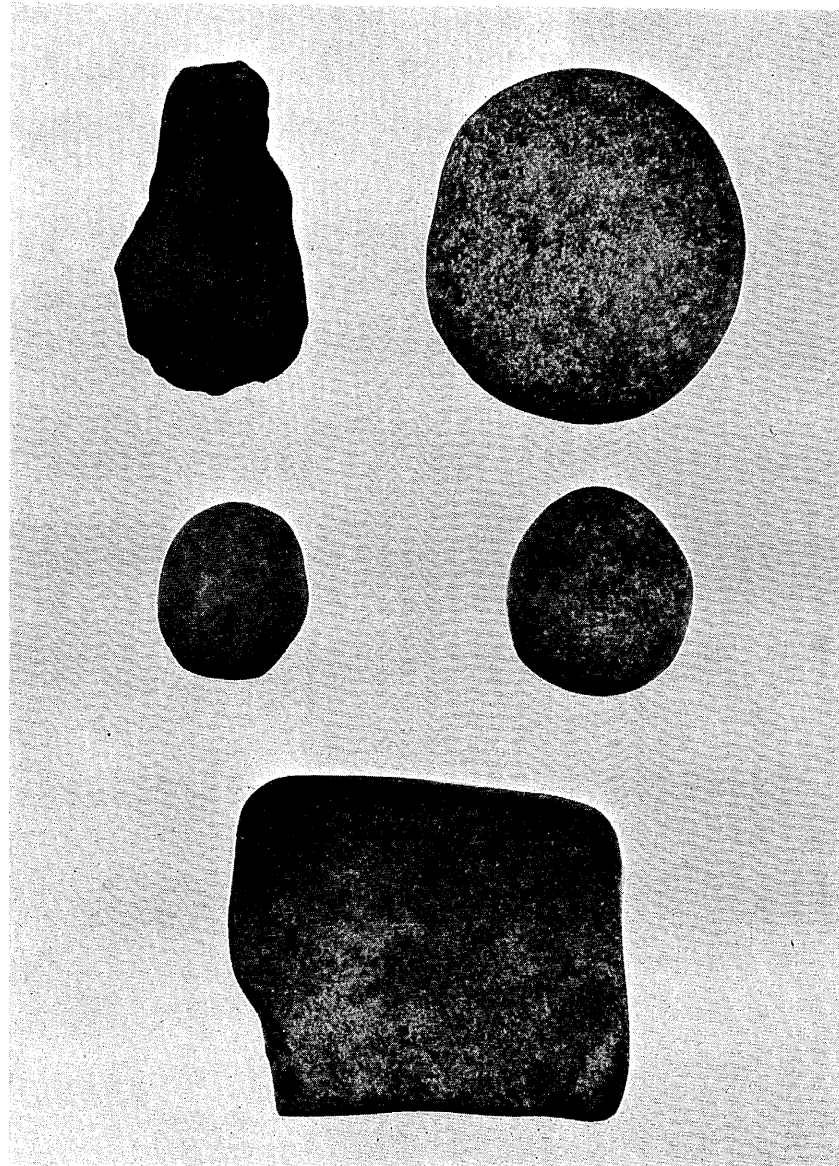
図版 5 朝日ヶ丘遺跡昭和39年調査出土石器 (1) <縄文時代>



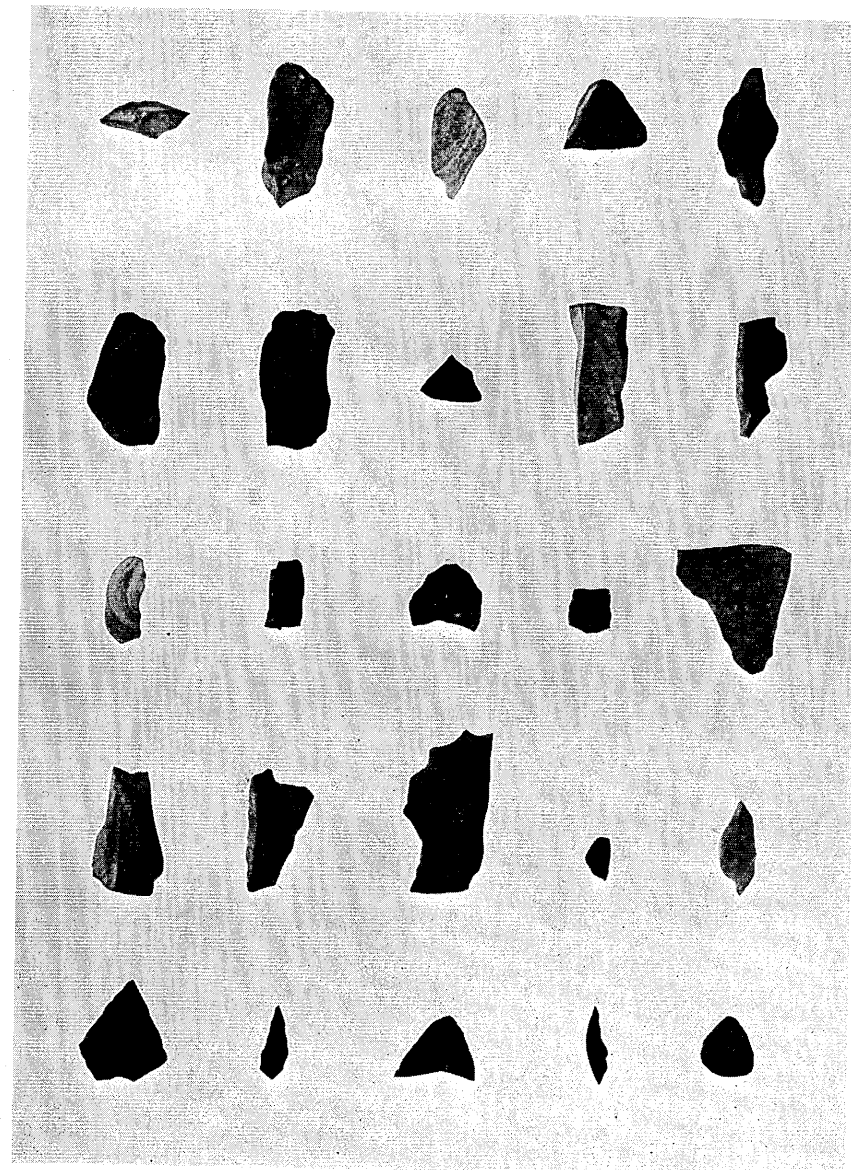
図版 8 朝日ヶ丘遺跡昭和39年出土石器 (4) 〈縄文時代〉



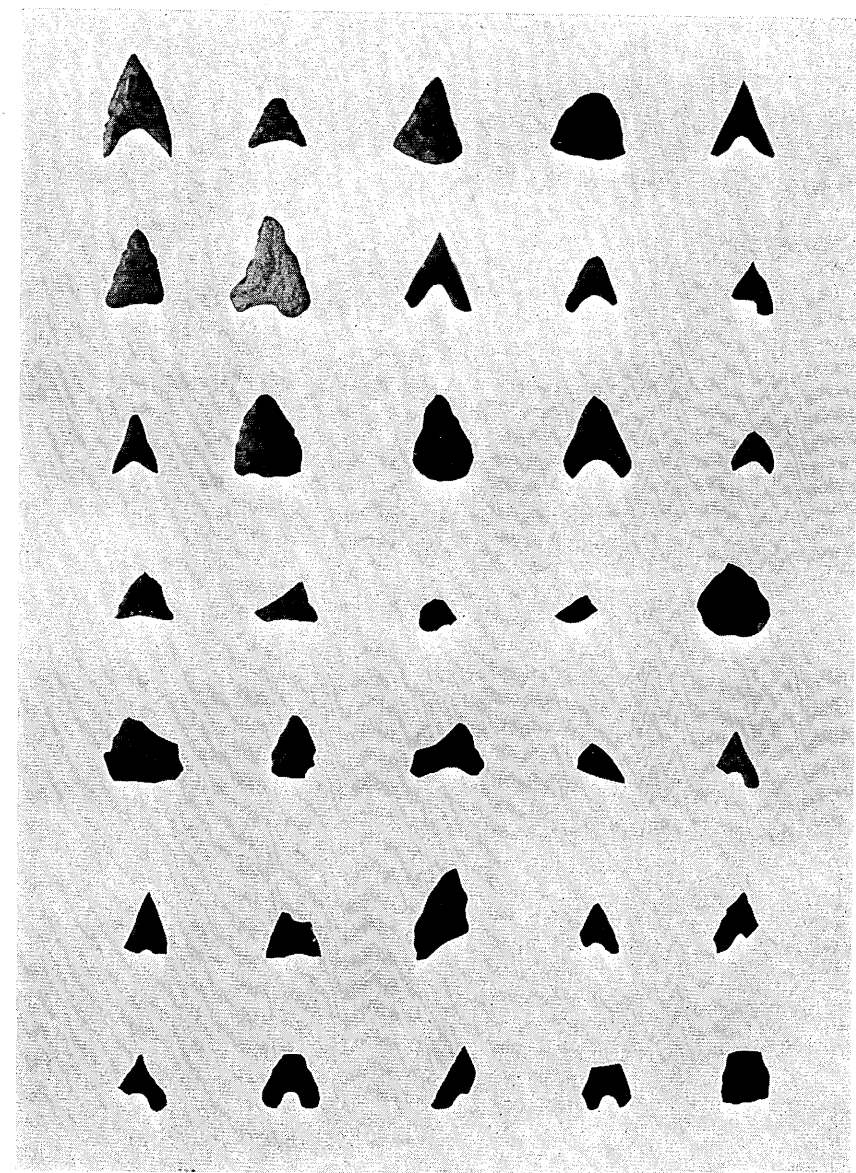
図版 7 朝日ヶ丘遺跡昭和39年出土石器 (3) 〈縄文時代〉



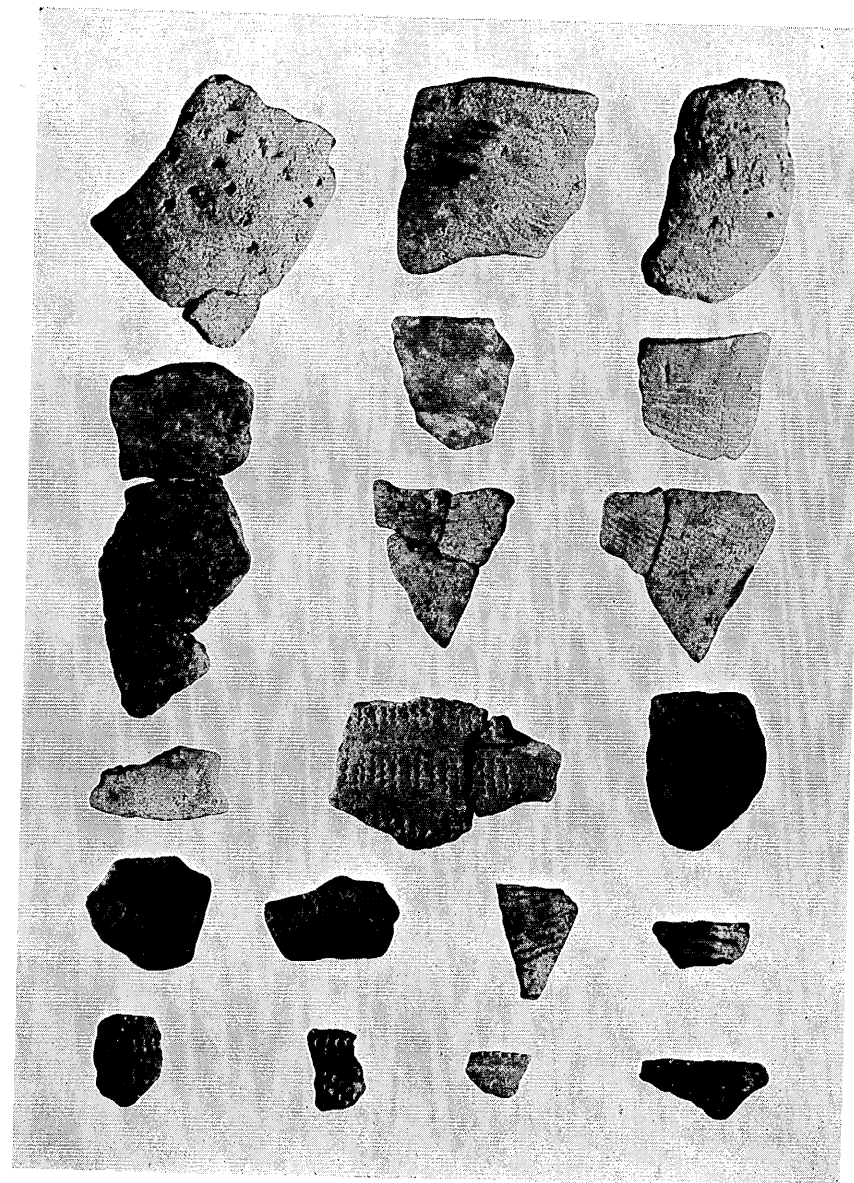
図版10 朝日ヶ丘遺跡昭和39年出土石器 (6) <縄文時代>



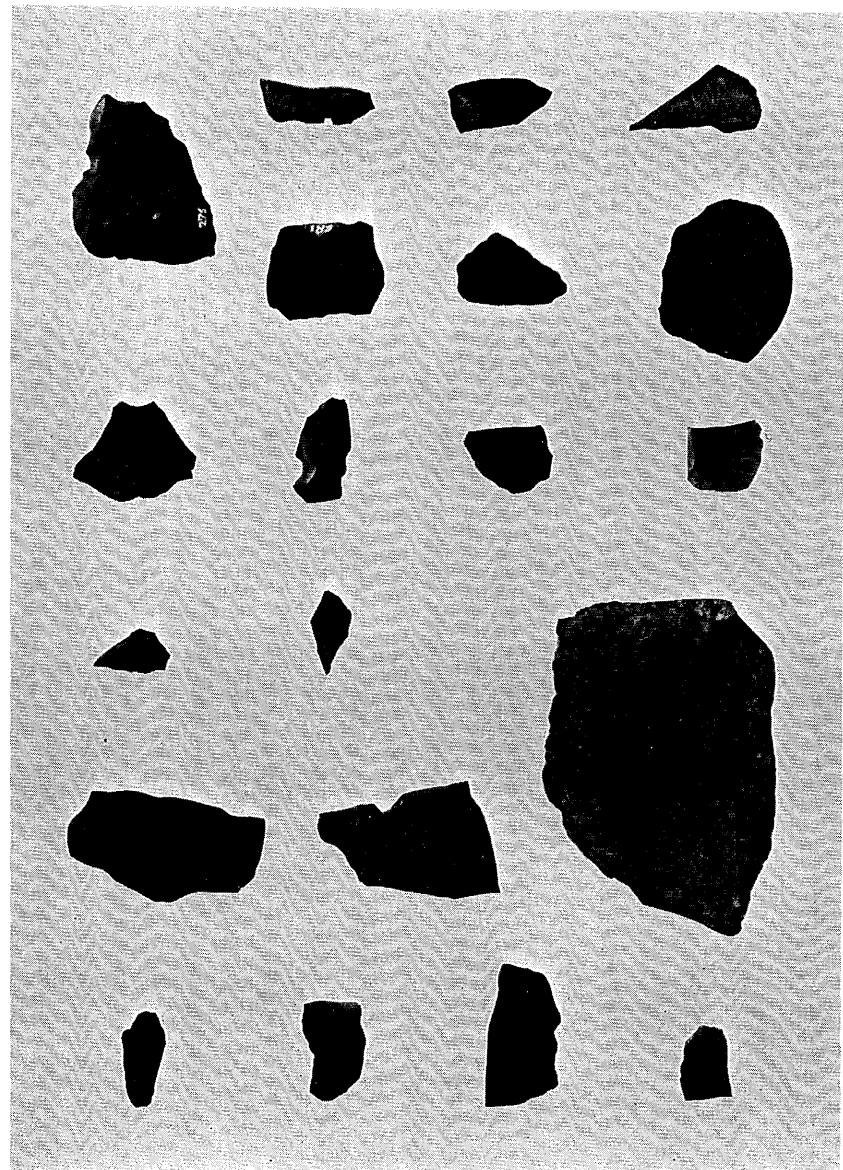
図版9 朝日ヶ丘遺跡昭和39年出土石器 (5) <縄文時代>



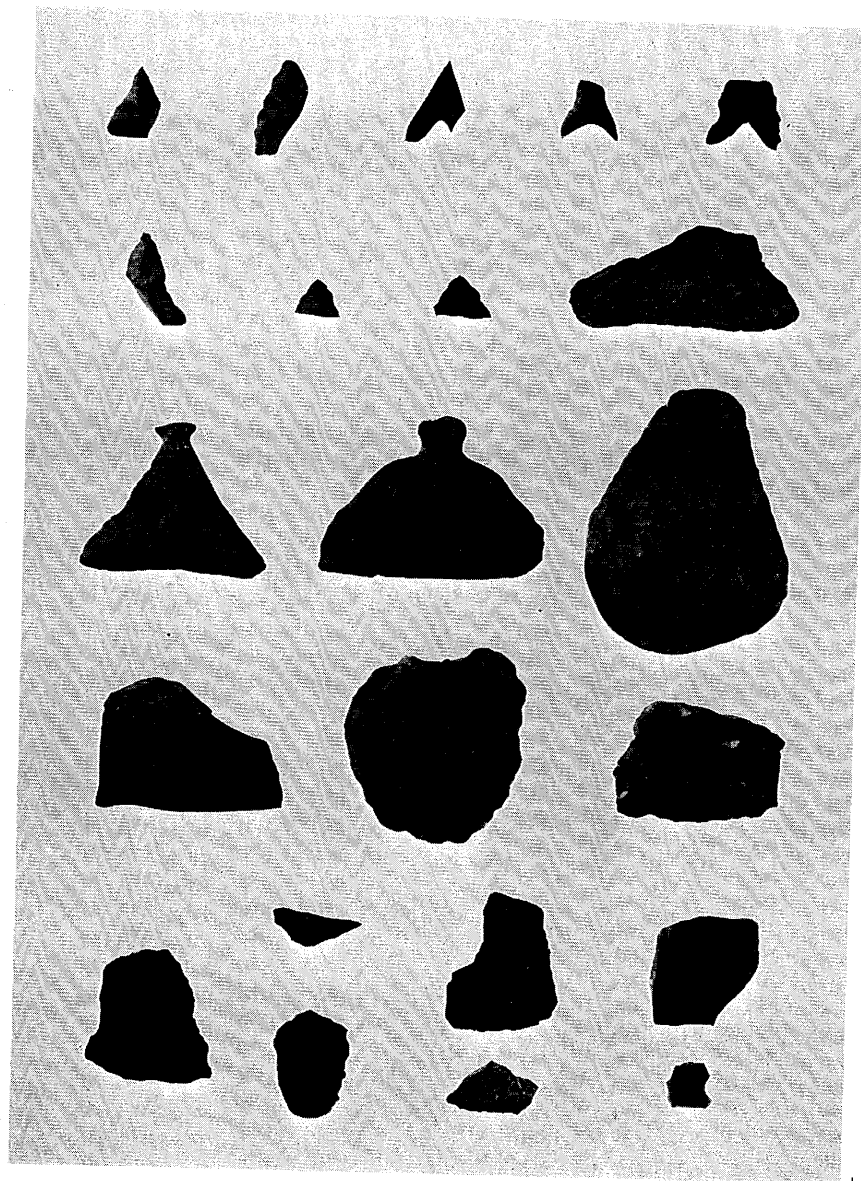
図版12 朝日ヶ丘遺跡昭和48年調査出土石器 (1)〈縄文時代〉



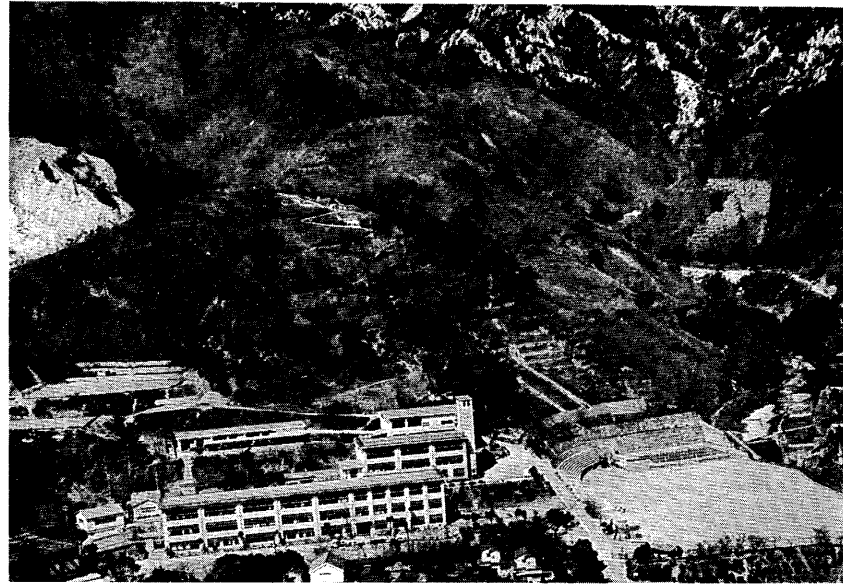
図版11 朝日ヶ丘遺跡昭和39年出土石器〈縄文時代〉



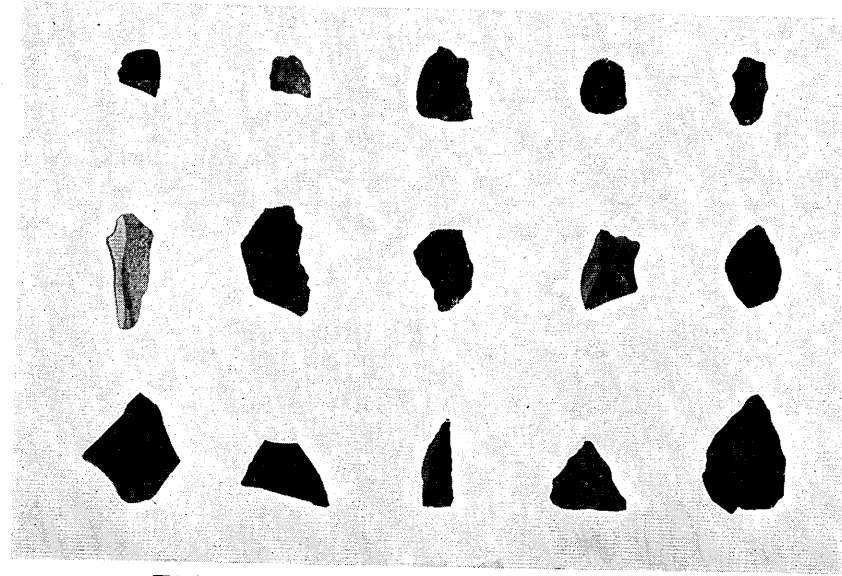
図版14 朝日ヶ丘遺跡昭和48年調査出土石器 (3) 〈縄文時代〉



図版13 朝日ヶ丘遺跡昭和48年調査出土石器 (2) 〈縄文時代〉



図版16 空から見た会下山遺跡
 (上) 南より撮影 (手前の建物は市立山手中学校)
 (下) 北西より撮影 (住居址群主要部)



図版15 朝日ヶ丘遺跡昭和48年調査出土石器 (4) <縄文時代>



<1> E地区住居址

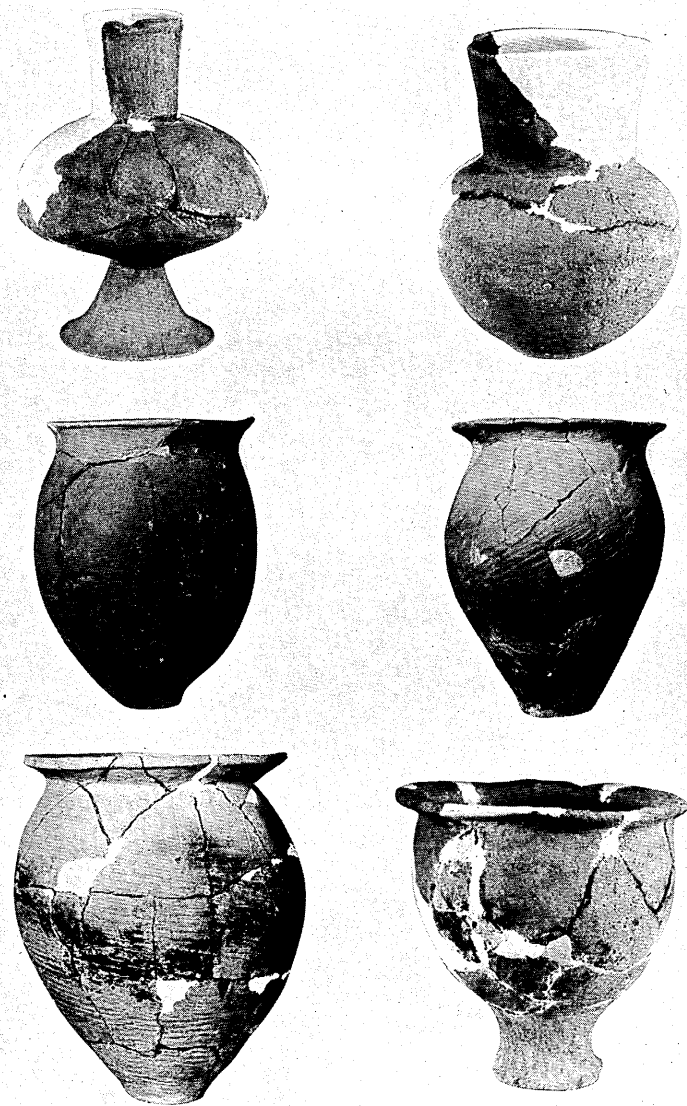


<2> F地区住居址

図版18 会下遺跡住居址検出状況 (1)



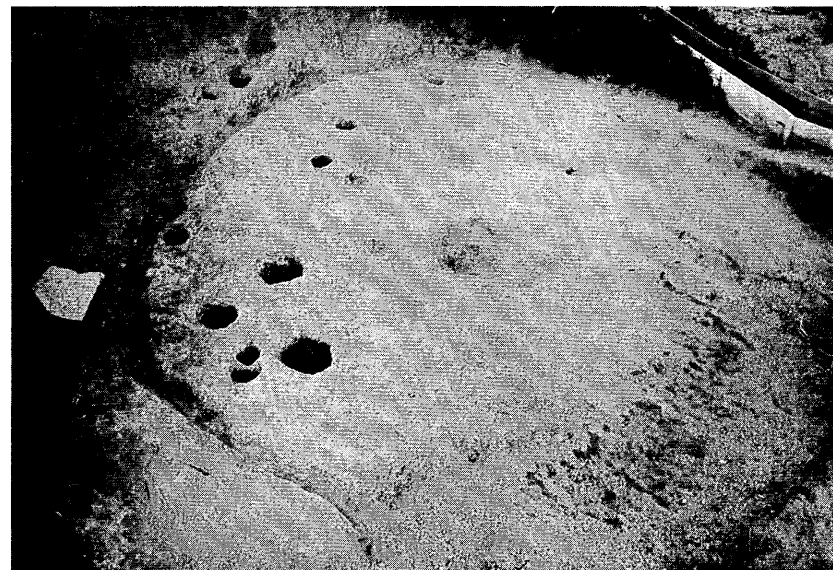
図版17 会下山遺跡住居址群発掘風景
(手前よりC・E・P・F・Q・S地区の各遺構)



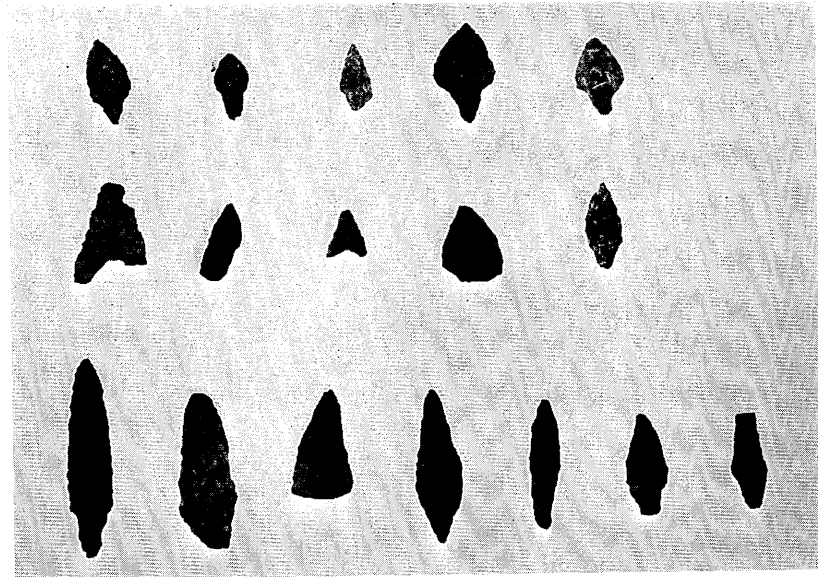
図版20 会下山遺跡出土土器 (1)



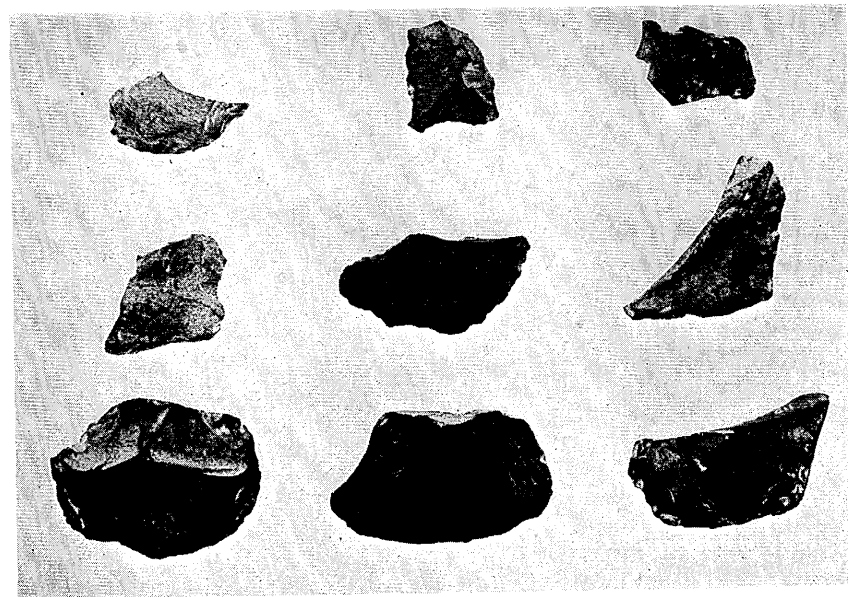
<1> X地区住居址



<2> N地区住居址 図版19 会下山遺跡住居址検出状況(2)

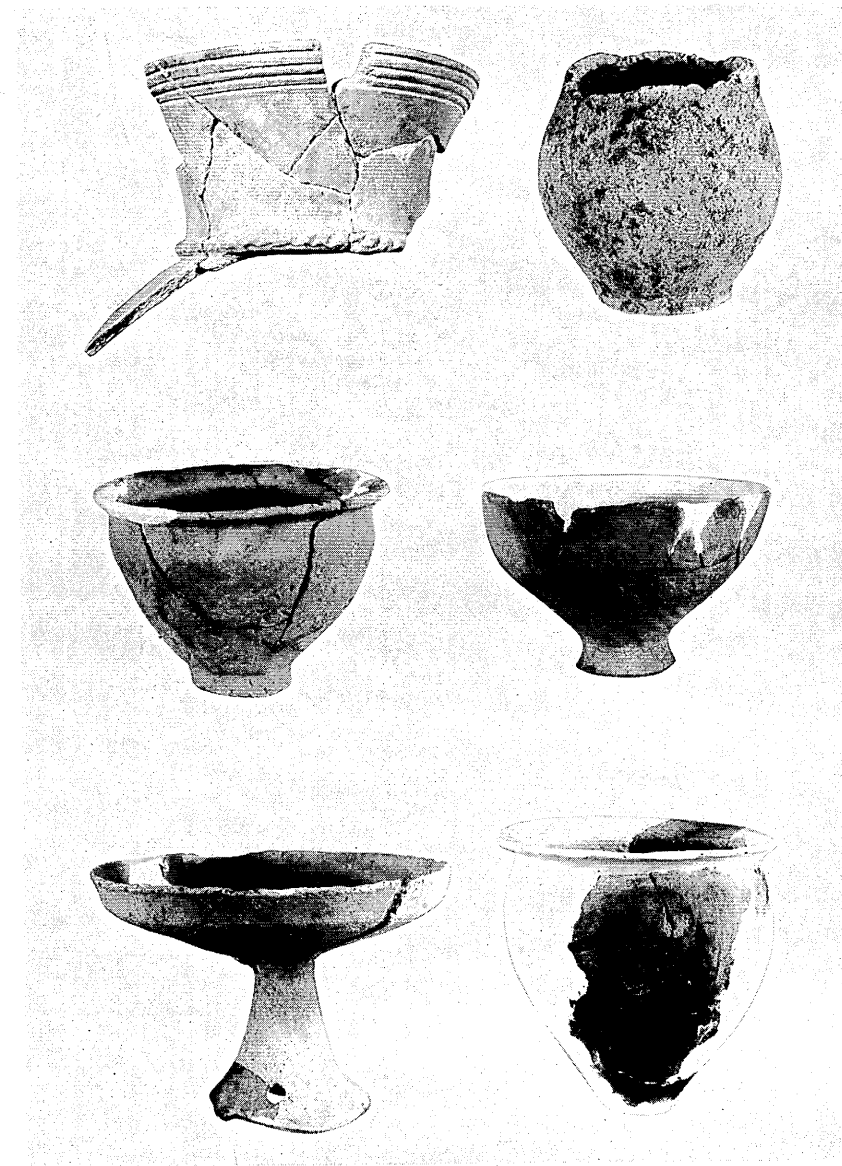


(1) 打製石燄

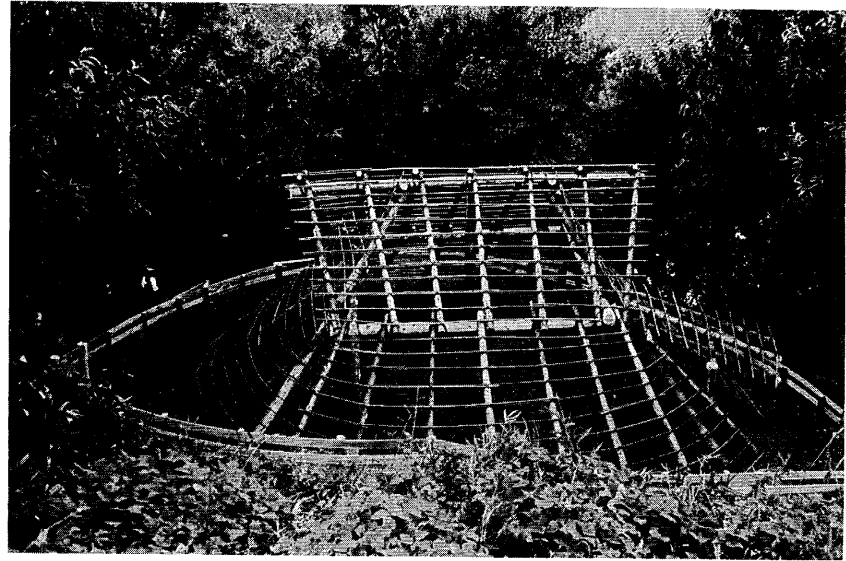


(2) 不定形刃器

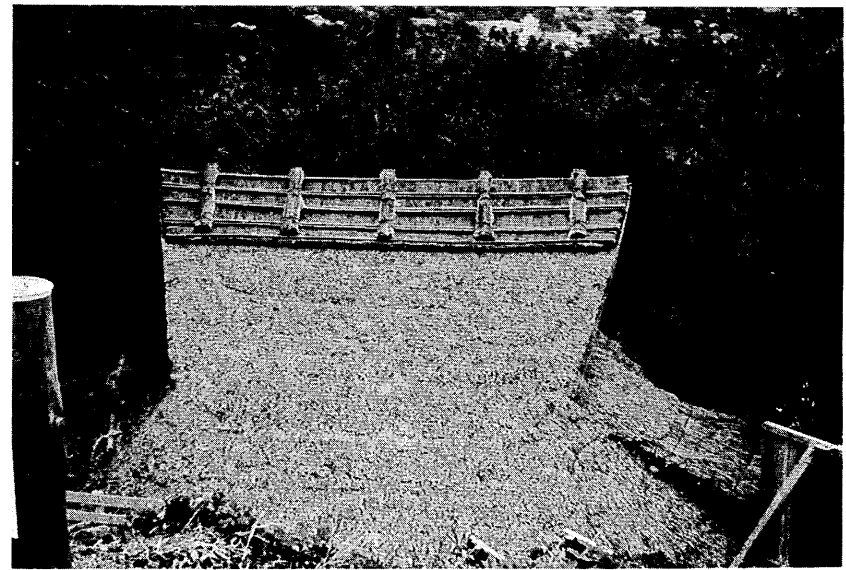
圖版22 会下山遺跡出土石器



圖版21 会下山遺跡出土土器 (2)

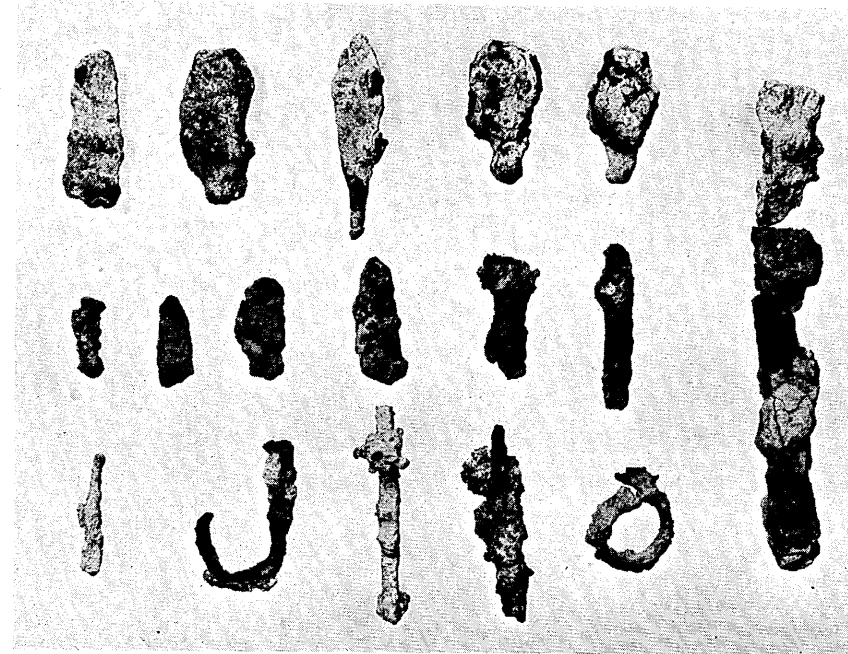


(1) 復原住居の構築過程

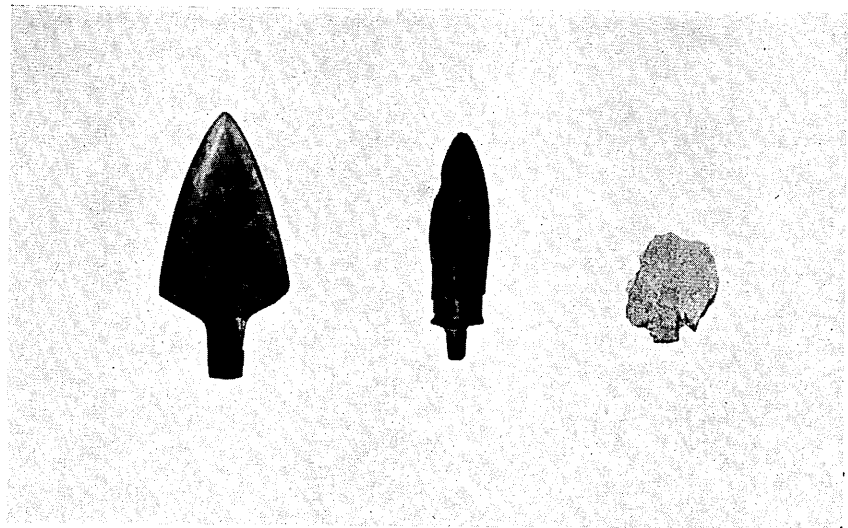


(2) 復原住居全景

図版24 会下山遺跡復原住居



(1) 鉄器

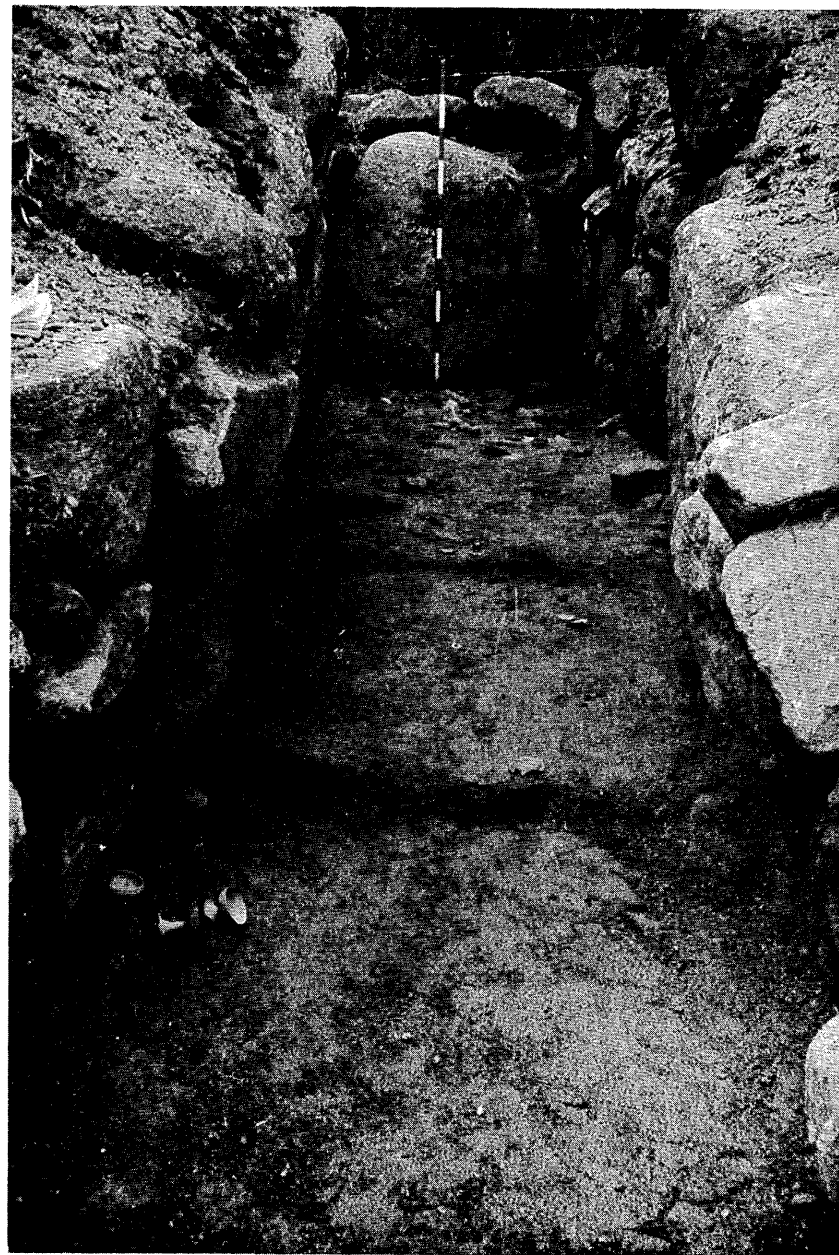


(2) 磨製石鏃・漢式三翼鏃・銅鏃

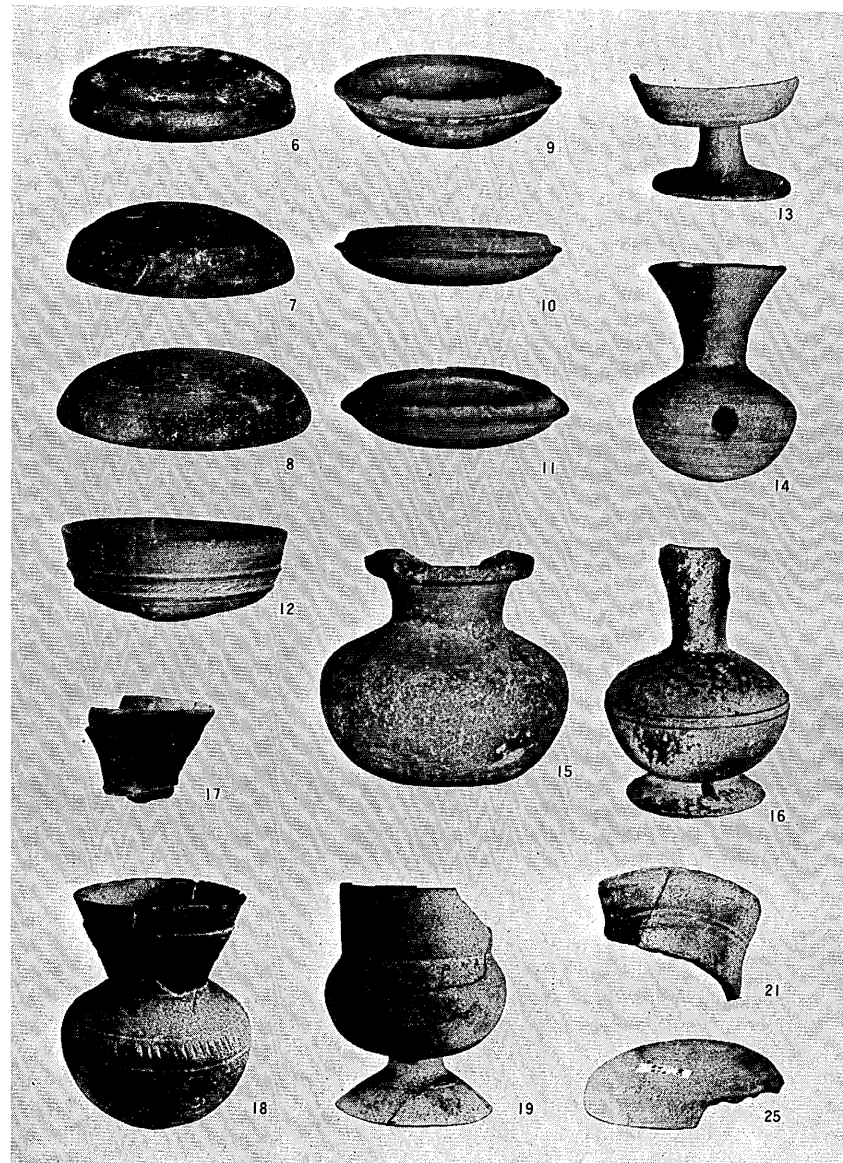
図版23 会下山遺跡出土鉄器・青銅器・石器



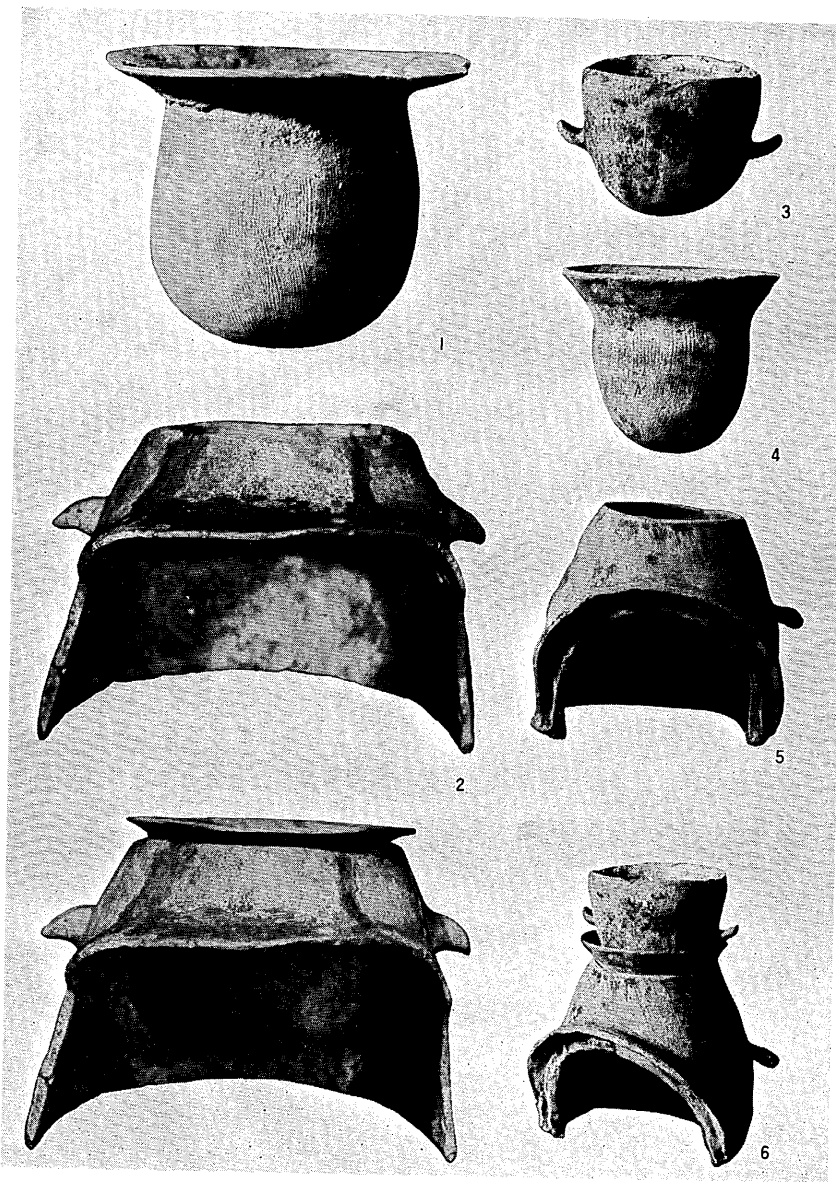
图版26 八十塚C号墳石室全景



图版25 八十塚A号墳石室全景



図版28 市内出土の古墳時代遺跡 (2)
朝比奈貞雄所蔵資料 <6~16>
吉岡昭採集資料 <17~25>



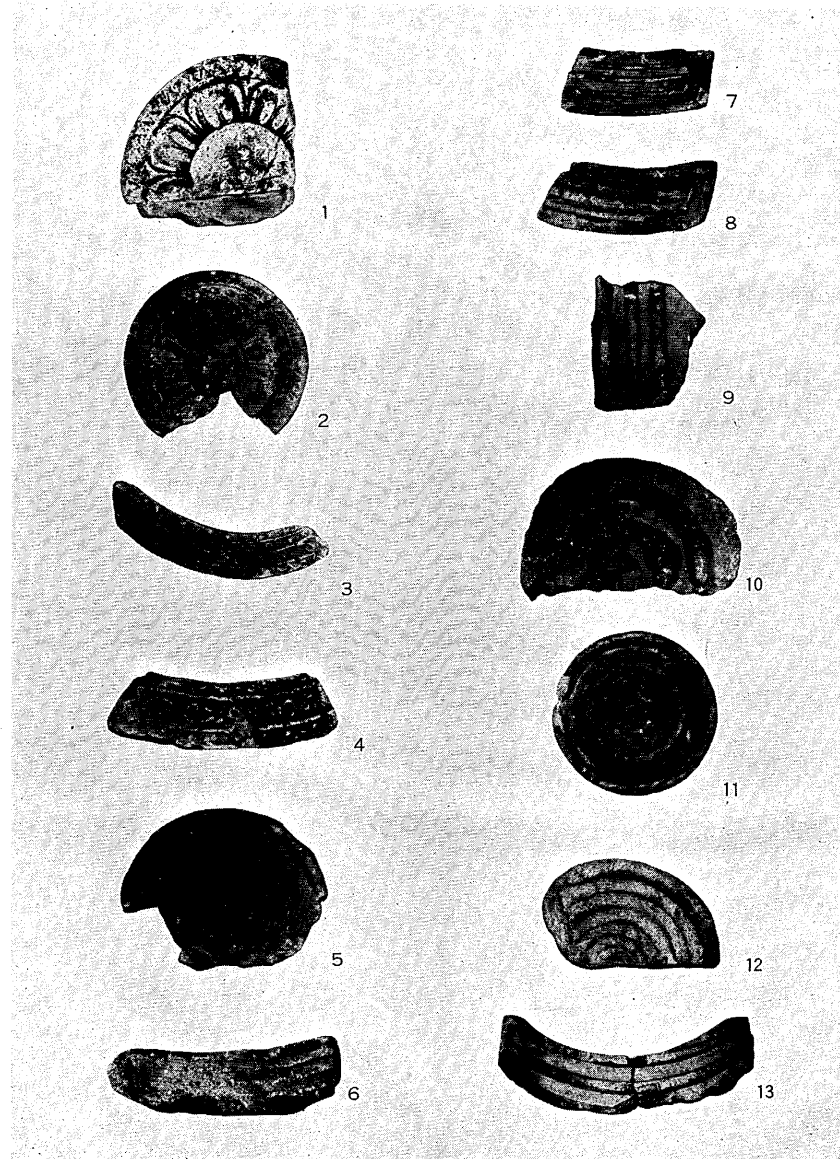
図版27 市内出土の古墳時代遺物 (1)
城山南麓出土甕形土器 <1・2>
三条字寺之内出土甕形土器 <3・4・5・6>



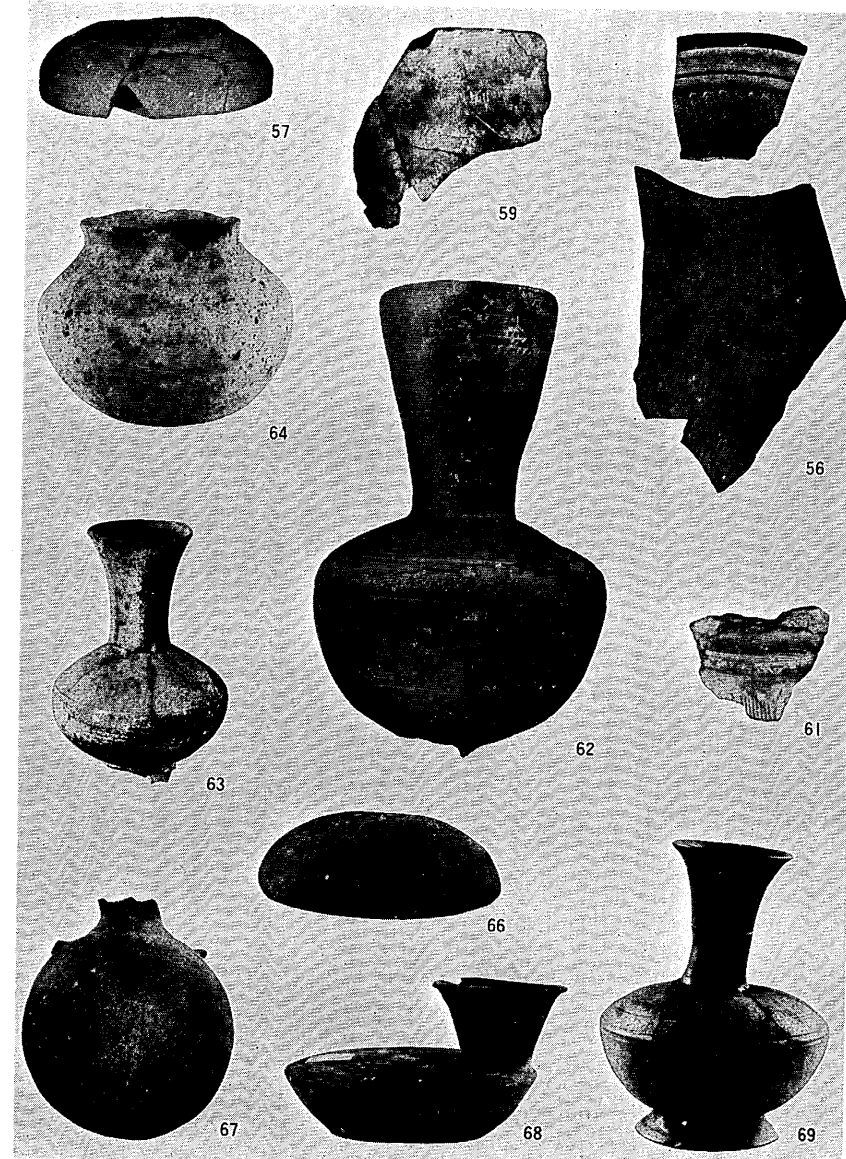
図版30 市内出土の古墳時代遺物 (4)
 若林泰所蔵資料 <38・39>
 山手町21番地出土資料 <40・41>
 六麓荘町181番地出土資料 <42・43>
 神井建設工業株式会社所蔵資料 <45~48>



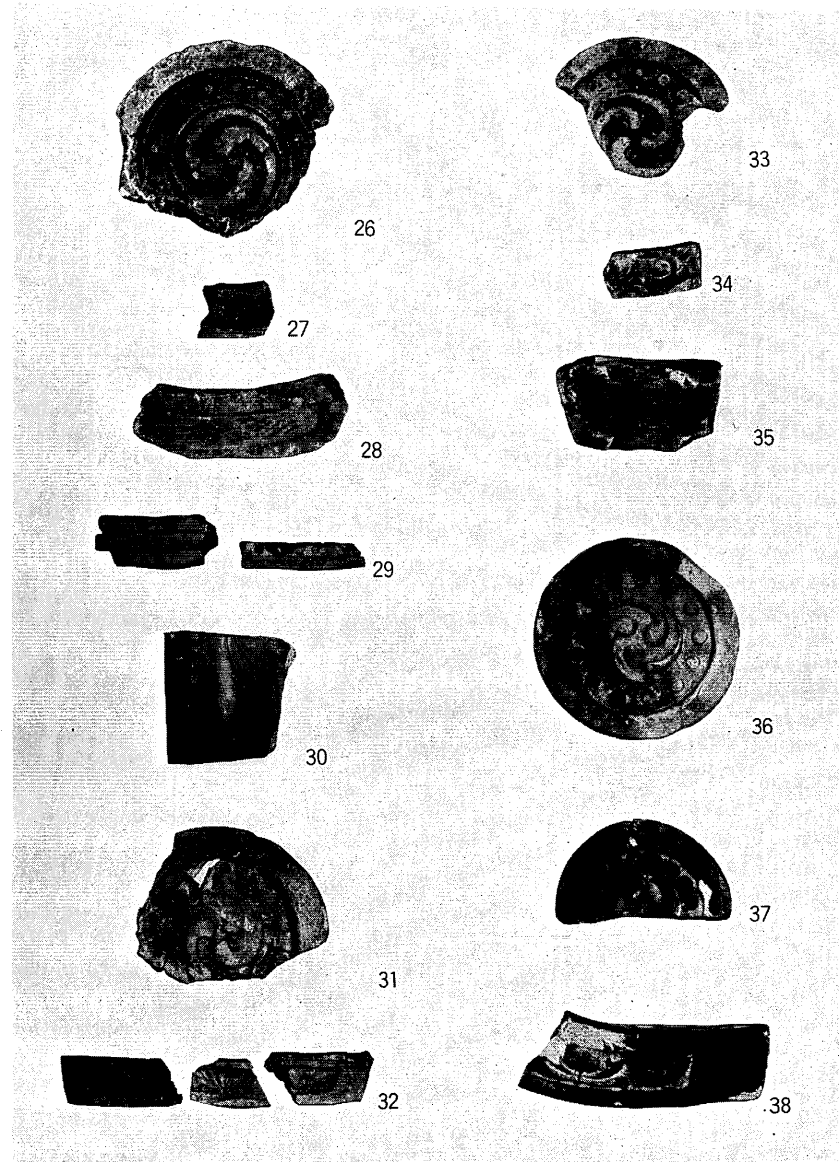
図版29 市内出土の古墳時代遺物 (3)
 吉岡昭採集資料 <23・24>
 若林泰所蔵資料 <30~37>



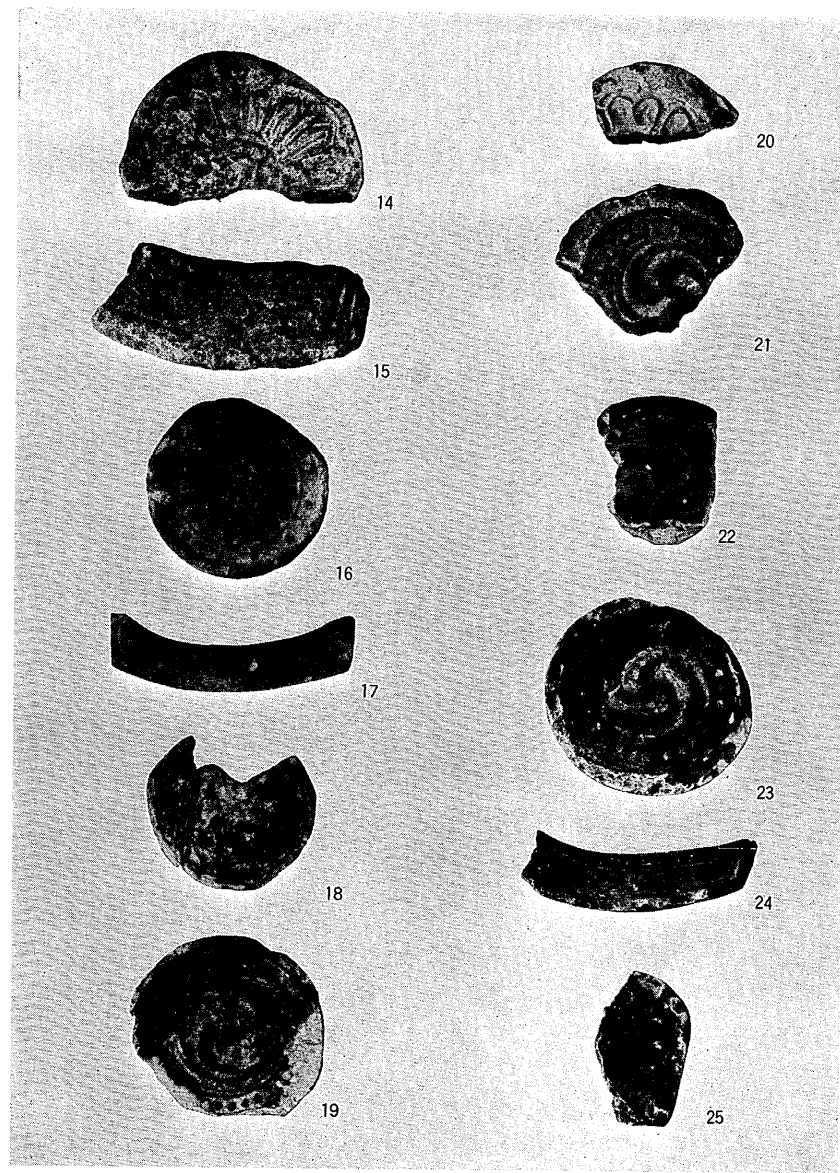
図版32 芦屋廃寺址出土遺瓦 (1)
 奈良前期〈1〉 藤原宮期〈2・3〉 平城宮期〈4〉
 後期難波宮期Ⅰ〈5~9〉 後期難波宮期Ⅱ〈10~13〉



図版31 市内出土の古墳時代遺物 (5)
 三条町240番地出土資料〈57~61〉
 鈴木富登所蔵資料〈62〉
 旭化成寮内出土資料〈63〉
 室崎政次郎寄贈資料〈64〉
 県立芦屋高校所蔵資料〈66~69〉



図版34 芦屋廃寺址出土遺瓦 (3)
 鎌倉期Ⅱ〈26~30〉 室町期Ⅰ〈31・32〉
 室町期Ⅱ〈33・34〉 室町期以降〈35〉
 江戸期〈36~38〉



図版33 芦屋廃寺址出土遺瓦 (2)
 奈良末~平安初期〈14・15〉 平安前期〈16・17〉
 藤原前Ⅰ〈18〉 藤原期Ⅱ〈19・20〉 藤原期Ⅲ〈21〉
 藤原期Ⅳ〈22〉 鎌倉期Ⅰ〈23~25〉

序

芦屋市史編集事業は先に昭和四十六年十一月、旧版芦屋市史を全篇書き改められた「新修芦屋市史」本篇が刊行されています。その後、資料篇の刊行について多くのかたがたから期待を寄せられていました。諸般の事情によりおそくなりましたが、今日刊行の運びとなりました。

資料篇は本篇のかなめとなる諸資料に検討が加えられ、まとめられたものです。本書には、はるか旧石器時代から中世までの芦屋地方における地域社会の具体的な遺跡・遺物、資料が紹介されています。とくに考古分野につきましては、ひろく他地域との共通性や特色を究明するため、関係者の熱心な努力が続けられました。

このような資料は都市化のなかで年々散逸してゆくおそれがあり、永く保存して将来の利用に役立てなければなりません。

資料篇はこのような意味で、まとめられたものでありますので、芦屋の土地を理解していただくためにも、また新しい芦屋のまちづくりにも役立てていただければ幸いです。

おわりに、芦屋市史編集に際し、深いご理解をいただきました市議会および終始執筆と編集にご尽力下さいました編集委員の諸先生方をはじめ関係者のかたがた、資料の提供にご協力下さいましたかたがたに厚く御礼申し上げます。

昭和五十一年三月

芦屋市長

松永 精一

刊行によせて

新修芦屋市史本篇の発行に引続き、ようやくここに資料篇一の刊行ができました。ふりかえりますと、旧版芦屋市史資料篇が刊行されました昭和三十一年から二十年が経過しました。当時の編集事業で体験しました「諸資料の保存と活用」の必要性が、その後芦屋市郷土史料室の役割として引継がれ、市史に関する古文書・古絵図・諸文献や出土品などを収集整理し、公開展示もできるようになりました。

近年、本市の流動人口も激しく、市の歴史的な背景を知ろうとする市民のかたがたの関心もとみに増加してきています。このような市民の要望にこたえるためにも、また、さまざまな行政目的や教育目的にも活用できるように、市史資料篇として、まず本書（考古・古代・中世篇）を刊行する運びになった次第です。

本書の第一篇には、本市の二十年余にわたる埋蔵文化財の調査や研究の成果が紹

介されています。第二篇には中世以前の文献史料を収録しています。なにぶんこの時代の史料は数量が限られていますので、それだけに編集関係者はたえず周辺地域の史料にも注目し、関係資料を求める努力が重ねられました。

今後も、芦屋市史の資料が、市民共通の文化財として、研究者や多くのかたがたのお役に立つことを願ってやみません。

長年にわたって、芦屋市史の編集にご尽力くださいました諸先生方や、資料をご提供くださった関係者のかたがたに対し、心から厚くお礼を申し上げます。

昭和五十一年三月

芦屋市教育長

芝田暉治

凡 例

- 一、本書は『新修芦屋市史』本篇の資料篇として、考古・古代・中世の分野を集録した。
- 一、総説で本市域の地域的特色を概観した。
- 一、第一篇考古篇では、第一章旧石器・縄文時代とくに石器の編年と考証に重点をおき、周辺地域の考察に一標式を与えた。
- 一、第二章弥生時代では武庫川以西、六甲山系の主要遺跡を抄録・概観し、出土土器の分析を通して会下山遺跡の様相を中心に考証した。
- 一、第三章古墳時代では古墳の分布状況と遺構を究明することにより、群集墳の意義と地域的特色を考証した。
- 一、第四章歴史時代では芦屋廃寺址遺瓦の編年をおこなって一基準を示した。
- 一、考古学関係では各分野において研究史・各論・遺物・遺構の抄述、遺物編年表の作成、周辺との比較考証をおこなっているが、地域的特色と問題点を提示した。
- 一、遺物の所在、写真・表・実測図などについてはそれぞれの箇所です蔵者・提供者・出典などを示したが、説明のないものは当市教育委員会の調査によるものである。
- 一、第二篇古代・中世篇は奈良時代以前より戦国時代（元和偃武頃まで）にいたる基本的な文献史料を集録した。なお、古代篇には当市周辺の史料も載録した。各史料は、はじめに【】をもって題名を掲げ、その下に年代・出典あるいは所蔵者の名を記した。

一、史料の配列はほぼ編年体にしたが、中世篇では一部内容に即して配列をおこなった所もある。年月日不詳のものうち推定が可能なのは該当の個所に収め、困難なものは各時代の最後に配列した。

一、原則として当用漢字を使用し、変体がなも現行のひらがなに改めた。原文には句読点を加えたが、既刊史料使用に際しては原則として既刊本の句読点・表記に従った。返り点は全て省略した。

一、傍注は原本・既刊史料の表記に従った。校訂者の注記の場合は()を施した。

一、原本の文字が判読しがたい場合や欠損している場合は、□で字数分を示し、字数が推定できない場合は□□で示した。

一、翻読の便をはかって、頭注を施した。古代篇では後注を設け、史料の解説をおこなった。

一、別篇文献資料篇では市域における昭和十年代の遺跡踏査の貴重な記録である吉岡昭の遺稿を抄録した。

一、諸官庁・研究機関・史料提供者・所蔵者その他多くの方々から助言・協力をうけたが、全ての方々の芳名をあげることができなかった。敬称の省略とともにご了承を得たい。

一、題字は初代委員長故魚澄惣五郎博士の染筆である。

(目次しの図は芦屋歴史出土遺五拾五)

昭和五十一年三月

芦屋市史編集委員

村末有武
川中坂藤
行哲隆
弘夫道誠

新修 芦屋市史 資料篇一

目次

総説

芦屋市の位置と環境(1)……考古学上の成果(2)……歴史時代の史料と遺跡(4)……中世の動き(5)

第一篇 考古篇

第一章 旧石器・縄文時代

1 旧石器時代……………9

水河時代と人類の出現(9)……旧石器時代研究のあゆみ(10)……旧石器時代、先土器時代の呼称(旧石器文化探究のはじめ)明石原人の発見(旧石器時代とその年代)旧石器文化の研究の進展(石器の製作法)石器の種類と名称(石器群の編年)

2 縄文時代

縄文時代の概観と研究の現状(20)……土器の出現(縄文時代の時代区分(縄文土器の古さ)
畿内の縄文土器)(縄文文化の終末(縄文文化研究の現状)

3 旧石器・縄文時代の遺跡、遺物

朝日ヶ丘遺跡(26) 芦屋地方の旧石器・縄文時代の地域的特色(79)

第二章 弥生時代

1 研究史

弥生時代研究のあゆみ(81) (明治以前) (明治・大正期) (昭和前半期) (昭和後半期) (新たな
研究と今後の課題)

2 市内の主要な弥生遺跡

(イ) 会下山遺跡(88) …… (ロ) 城山遺跡(170) …… (ハ) 城山南麓遺跡(176) …… (ニ) 芦屋廃寺下層遺跡(178)
(ホ) 打出岸造り遺跡(182) …… (ヘ) 岩ヶ平遺跡(185) …… (ヒ) 藤ヶ谷遺跡(189) …… (フ) 三条岡山遺跡(190)
(ク) 西良手遺跡(191) …… (ケ) 打出地造り遺跡(192) …… (コ) 笠ヶ塚遺跡(192) …… (カ) 堂ノ上銅鐸出土地
(193) …… 小結(198)

3 周辺の主要な弥生遺跡

(イ) 保久良神社遺跡(202) …… (ロ) 金鳥山遺跡(209) …… (ハ) 坂下山遺跡(212) …… (ニ) 森北町遺跡(216)

4 会下山遺跡出土の土器特論

(イ) 出土土器よりみた会下山集落の生活様式(274) …… (ロ) グラフの見方(集落全体の土器様式
別出土量(各遺構・発掘地点ごとの土器様式別出土量)(集落全体の主要器種組成(日常生活
器と祭祀儀器)(中期から後期への器種組成変化)(各遺構・発掘地点ごとの主要器種組成)
(後期弥生式土器の形式分類(後期鉢形土器の形式組成(後期高杯形土器の形式組成(石
器・金属器との組成の比較(会下山集落民の集団関係(地域間の交流と河内地方の土器)
(会下山遺跡出土土器の胎土の化学分析(297) …… (分析操作の概要(分析結果(考察
(住居址一括出土資料と編年上に占める位置(302) …… (a) 会下山遺跡出土の一括資料(西
西撰地区における畿内第V様式編年試案(314)

第三章 古墳時代

1 研究史

古墳時代研究のあゆみ(321) …… (明治以前) (明治時代) (大正時代) (昭和前期) (昭和後半期)

2 縄文時代

縄文時代の概観と研究の現状(20)……土器の出現(縄文時代の時代区分(縄文土器の古さ)
畿内の縄文土器)(縄文文化の終末(縄文文化研究の現状)

3 旧石器・縄文時代の遺跡、遺物

朝日ヶ丘遺跡(26) 芦屋地方の旧石器・縄文時代の地域的特色(79)

第二章 弥生時代

1 研究史

弥生時代研究のあゆみ(81) (明治以前) (明治・大正期) (昭和前半期) (昭和後半期) (新たな
研究と今後の課題)

2 市内の主要な弥生遺跡

(イ) 会下山遺跡(88) …… (ロ) 城山遺跡(170) …… (ハ) 城山南麓遺跡(176) …… (ニ) 芦屋廃寺下層遺跡(178)
(ホ) 打出岸造り遺跡(182) …… (ヘ) 岩ヶ平遺跡(185) …… (ヒ) 藤ヶ谷遺跡(189) …… (フ) 三条岡山遺跡(190)
(ク) 西良手遺跡(191) …… (ケ) 打出地造り遺跡(192) …… (コ) 笠ヶ塚遺跡(192) …… (カ) 堂ノ上銅鐸出土地
(193) …… 小結(198)

3 周辺の主要な弥生遺跡

(イ) 保久良神社遺跡(202) …… (ロ) 金鳥山遺跡(209) …… (ハ) 坂下山遺跡(212) …… (ニ) 森北町遺跡(216)

4 会下山遺跡出土の土器特論

(イ) 出土土器よりみた会下山集落の生活様式(274) …… (ロ) グラフの見方(集落全体の土器様式
別出土量(各遺構・発掘地点ごとの土器様式別出土量)(集落全体の主要器種組成(日常生活
器と祭祀儀器)(中期から後期への器種組成変化)(各遺構・発掘地点ごとの主要器種組成)
(後期弥生式土器の形式分類(後期鉢形土器の形式組成(後期高杯形土器の形式組成(石
器・金属器との組成の比較(会下山集落民の集団関係(地域間の交流と河内地方の土器)
(会下山遺跡出土土器の胎土の化学分析(297) …… (分析操作の概要(分析結果(考察
(住居址一括出土資料と編年上に占める位置(302) …… (a) 会下山遺跡出土の一括資料(西
西撰地区における畿内第V様式編年試案(314)

第三章 古墳時代

1 研究史

古墳時代研究のあゆみ(321) …… (明治以前) (明治時代) (大正時代) (昭和前期) (昭和後半期)

本市域の研究史(323)

2 古墳分布の概観

〈平地部〉〈傾斜交換線〉〈山麓斜面〉

329

3 古墳各説

(イ)金津山古墳(黄金塚・金塚(333))

(ロ)阿保親王塚古墳(340)

(ハ)打出周辺の古墳(348)……〈aうの塚〉〈b斧塚〉〈c鞍塚〉〈d牛廻し塚〉〈e大藪小藪塚〉

〈f元塚〉〈g宮塚〉

(ニ)三条古墳群(352)

(ホ)翠ヶ丘古墳群(353)……〈a四ツ塚〉〈b駒塚(馬塚)〉

(ヘ)城山南麓古墳群(355)……〈旭塚古墳〉……(ト)笠ヶ塚群集墳(358)……〈芦屋神社境内古墳〉

(フ)八十塚群集墳(360)……A朝日ヶ丘支群(363)……B岩ヶ平支群(369)……C劔谷支群(395)……D苦楽園五番町支

群(398)(リ)八十塚群集墳の総括(410)

333

4 市内出土の古墳時代遺物

419

(イ)辰馬悦蔵所蔵資料(419)……(ロ)城山南麓出土甕形土器(420)……(ハ)三条字寺ノ内出土甕形土器

(420)……(ニ)朝比奈貞雄所蔵資料(421)……(ホ)吉岡昭探集資料(421)……(ヘ)若林泰所蔵資料(421)

(ハ)山手町二十一番地出土資料(422)……(フ)六麓荘町一八一番地出土資料(422)……(リ)神井建設工

業株式会社所蔵資料(422)……(ロ)三条町二四〇番地出土資料(423)……(ハ)鈴木富登所蔵資料(424)

……(ニ)旭化成寮内出土資料(424)……(ハ)室崎政次郎寄贈資料(425)……(ロ)篠山鳳鳴高校所蔵資料

(425)……(ロ)兵庫県立芦屋高等学校所蔵資料(425)……遺物表(426)

第四章 歴史時代

1 研究史

453

条里制(453)……仏教文化(453)……阿保親王(454)……総合研究(454)

2 芦屋麁寺址

455

第二篇 古代・中世篇

第一章 奈良時代以前

483

日本書紀

孝德天皇大化三年(六四七)十二月

応神天皇三十一年八月

天武天皇六年(六七七)十月

応神天皇四十一年二月

持統天皇三年(六八九)八月

仁徳天皇三十八年七月

統日本紀 文武天皇慶雲三年(七〇六)十月

雄略天皇十七年三月

第二章 奈良時代

487

撰津国風土記逸文

正倉院文書 天平神護元年(七六五)

法隆寺伽藍縁起并流記資財帳

続日本紀

天平十九年(七四七)二月

天平神護元年(七六五)正月

天平神護二年(七六六)九月
神護景雲三年(七六九)六月

万葉集卷第七

第三章 平安時代

493

- 日本後紀 延曆二十四年(八〇五)十一月
- 日本後紀 大同三年(八〇八)七月
- 類聚国史 大同四年(八〇九)十一月
- 日本後紀 弘仁二年(八二二)三月
- 日本後紀 弘仁三年(八二二)十二月
- 日本靈異記
- 住吉大社司解
- 太政官符案
- 新撰姓氏錄
- 統日本後紀 承和九年(九四二)十月
- 三代実録
- 元慶四年(八〇〇)五月
- 仁和二年(八八六)八月
- 仁和二年(八八六)十月
- 東大寺要録
- 延喜式 卷九 神祇神名上
- 延喜式 卷二八 兵部省
- 延喜式 卷三二 民部上
- 日本紀略 天慶二年(九三九)十二月
- 貞信公記抄 天慶二年(九三九)十二月
- 純友追討記
- 撰津国大計帳案
- 撰津国正稅帳案 保安元年(一一二〇)
- 撰津国租帳
- 撰津国出拳帳案
- 撰津国調案
- 倭名類聚鈔
- 囊祖阿保親王尊廟竹園之伝記

阿保山親王寺縁起
今昔物語

伊勢物語
大和物語

第四章 鎌倉時代

523

- 僧良信田地売券 嘉祿元年(一二三五)
- 金剛仏子敬尊感身学正記
- 弘安八年(二二八五)
- 兵庫関合戦悪行輩交名注進状案
- 正和四年(二二二五)
- 沙弥法一田地寄進状 元亨元年(一二三二)
- 増鏡 元弘二年(二二三三)三月
- 異本伯耆卷 元弘二年(二二三三)三月
- 大山寺衆徒注進状 元弘三年(二二三三)五月
- 後藤基景軍忠状 元弘三年(二二三三)五月

第五章 南北朝・室町時代

531

- 太平記 延元元年(二二三六)
- 高橋彦六茂宗軍忠状 建武三年(二二三六)
- 豊前藏人直貞軍忠状
- 建武三年(二二三六)八月
- 和田助康軍忠状 延元元年(二二三六)三月
- 梅松論 建武三年(二二三六)
- 藤原兼宗軍忠状案 建武三年(二二三六)二月
- 足利直義感状 觀應二年(二三五二)二月
- 相知秀軍忠状 觀應二年(二三五二)七月
- 岡本良四軍忠状 觀應二年(二三五二)三月
- 伊丹宗義軍忠状 觀應二年(二三五二)三月
- 田代頭綱軍忠状 觀應二年(二三五二)三月
- 田代了賢軍忠状 觀應二年(二三五二)四月
- 某言上状 觀應二年(二三五二)四月

第六章 戦国時代

- 田代顕綱言上状 観応二年(一三五二)
- 広嶺長種軍忠状 観応二年(一三五二)三月
- 広峰頼長軍忠状 観応二年(一三五二)三月
- 観応二年日次記 観応二年(一三五二)二月
- 建武三年以来記 観応二年(一三五二)二月
- 金剛寺古記 正平五年(一三五〇)十一月
- 東寺王代記 観応二年(一三五二)二月
- 異本長者補任 観応二年(一三五二)二月
- 園太曆 観応二年(一三五二)二月
- 太平記 観応二年(一三五二)
- 森本基長軍忠状 文和二年(一三五三)六月
- 伯家五代記 文龜三年(一五〇三)正月
- 撰津国寺社本所領并奉公方知行等目録
- 道行ふり 応安四年(一三七二)
- 長蘆寺宗算跡諸方出挙方証文目録
- 永徳二年(一三八二)
- 北野社領諸国所々目録 文明五年(四七三)
- 北野社家引付 長享二年(一四八八)十月
- 北野社家引付 長享三年(一四八九)六月
- 忠富王記 明応五年(一四九六)正月・同七年七月・同十年正月・文龜三年(一五〇三)正月
- 實隆公記 永正八年(一五一一)七月・八月
- 後法成寺尚通公記 永正八年(一五一一)七月
- 拾介記 永正八年(一五一一)七月
- 細川澄元書状 永正八年(一五一一)十二月
- 那智籠 永正十三年(一五二六)
- 應仁後記 永正七年(一五二〇)
- 公方兩將記 永正八年(一五二二)
- 細川両家記 永正八年(一五二二)
- 瓦林正頼記 永正八年(一五二二)
- 陰徳太平記 永正八年(一五二二)
- 豊臣秀吉禁制 天正十一年(一五八三)八月
- 豊臣秀吉朱印状 天正十三年(一五八五)十月
- 芦屋川水日数定写
- 天正十七年(一五八九)五月
- 芦屋川水之割 天正十七年(一五八九)五月
- 徳川実紀 慶長十年(一六〇五)
- 伊丹後書状 元和元年(一六一五)三月
- 元和二年蘆屋庄打出村宗運文書
- 元和二年(一六一六)九月

別篇 参考文献

- 1 「撰津国芦屋郷土石器時代文化研究」 吉岡 昭遺稿(抄録)……………613
- 2 「考古随録」 吉岡 昭遺稿(抄録)……………617

- 統南行雜録 永正十六年(一五一九)
- 細川両家記
- 永正十六、十七年(一五一九、二〇)
- 三好長康裁許状 写 弘治三年(一五五七)二月
- 細川両家記 弘治三年(一五五七)
- 三好長康裁許状 永禄三年(一五六〇)十一月
- 原本信長記 天正六年(一五七八)
- 池田忠勝裁許状 写
- 天正十年(一五八二)十二月
- 豊臣秀吉禁制 天正十一年(一五八三)八月
- 豊臣秀吉朱印状 天正十三年(一五八五)十月
- 芦屋川水日数定写
- 天正十七年(一五八九)五月
- 芦屋川水之割 天正十七年(一五八九)五月
- 徳川実紀 慶長十年(一六〇五)
- 伊丹後書状 元和元年(一六一五)三月
- 元和二年蘆屋庄打出村宗運文書
- 元和二年(一六一六)九月